

霊界物語の眞実 第三卷  
三五教の過失

目次	1
表紙	2
目次	5
国祖の真実	6
国祖の違法	10
教義の違法	14
律法の違法	18
国祖の相克の真実	21
霊界物語の言霊は外国語	27
別室部長と良の金神の違い	32
八王八頭と神宝の違法	36
三五教の内部の問題	41
兇党界の最終陰謀	42
政策の矛盾	44
損害のもと	

存在の公案	47
年貢の納め時	50
知つたのだから	54
因果律の破壊	56
国祖に起きた恐ろしいことが国祖が周囲にしていること	60
場は見ていた	62
今までの地球	67
言霊の歴史	68
外交の歴史	72
支配を超えて	75
政府の無策	79
三五教の無策	83
別室の傲慢	86
三五教の問題	90
これからの地球	95

出来ない大成奉還

減り続ける幸福

現状維持か悪くなるだけに押し込めた三五教  
その一

現状維持か悪くなるだけに押し込めた三五教  
その二

三権の長は知っているか

誰が決めた

贖罪の火の玉は要らん

メビウス出来れば

復活のアイデアナイト

後記

127 123 120 117 114 110 106 103 100 96

国祖こくその真実しんじつ

## 国祖の違法

三五教はもとも国祖から始まる。靈界物語を読むと三五教の言つてゐることは矛盾してゐる。国祖のご意向というものは初めから矛盾してゐる。靈界物語を克明に読めばわかることだ。国祖は五情の戒律を定め違反した者を罰する。五情の戒律は天則であり、三五教は自由行動を天則違反という。当然自由行動天則違反説になる。三五教の国祖に従うということになる。国祖は天則遵守だから国祖のご意向に従うことが天則に従うことになるという論法になる。当然自分で動く自由行動は批判される。

そこで三五教は宣伝使を使ひし密書を使はせる。自由行動を取れば天則違反だが国祖に密書を送り承認を得れば自由行動は正当化されるという大成奉還だ。大成奉還が三五教の奥義だ。物語では宣伝使が大神に繋ぎを付けていた。これは三五教たるもの元締めと連動するのが当たり前。元締めと連動しないなら三五教ではない。大成奉還なしでは三五教の宣伝使ではない。真の三五教の元締めを見分けられねば真の三五教ではない。偽ものだ。国祖は自分を地球の主にしよとする。大國彦や常世彦のような野心家に地球は渡せない。当然それは国祖以外がトップに付くことが出来ないようにしようとする。国祖は自分くらい大まじめに地球を慮る者は無しという自負心があつた。国祖は民を思い鬼の面を付け嚴罰をくだす。しかし民は国祖を支持しない。なぜか。そりやそうだ。民にしてみれば国祖がトップなら国祖のご意向に反すれば罰せられる。国祖のご意向に適合した者なら面白いが合はねばつまらないからだ。

地球の民衆は国祖の基準に合わない。民は国祖の基準に合わせることに大変な苦痛を感じ

じていた。国祖の出した型は残り、国祖御隠退後も基準に合わせなければならぬ。国祖は御隠退の時にいつか必ず再臨すると預言した。そして自分が君臨する時のために決まりを決め守るといふやり方を残した。そのために積もり積もった不満が炸裂して、大洪水や大戦争になった。

国祖自らくだす裁きが地球に不平不満をもたらした。戒律を定めれば必ず生じる例外の違法。不測の事態が生じた時に困難を解決したらこういう過ちを起こしたとあることに違反の前列にされ罰せられては堪らない。

トツプはいい。しかし末端はつまらない。国祖は国祖を頂点とする階層構造を作ろうとする。それは国祖が富や権力を独占する未来永劫、上であり続けるということだ。だが、未来永劫末端という多くの民を生み出す。民は国祖に富を搾取され続ける。それで国祖が民を喜ばす政策をするか。いな、国祖は民衆の不評を買う政策をする。民衆はそれで幸せなら反旗を翻さないが、民衆はみな、国祖は、ずるいと言ったのだ。

三五教の戒律に適合した者がトツプに立つことになるからだ。上の階級は適合した者が集う。当然彼らは特権階級に君臨する。そこで特権階級が密室外交を行うようになる。彼らは三五教の元締めを立て、元締めを神と崇め元締めを中心とした特権階級と密室外交による神政政権の樹立を考える。そこで元締めは、目安箱を設け密書の大成奉還を受け付ける。だがそれで何が出来た。何にも出来はせん。出来上ったのは矛盾だ。

霊界物語では国祖は天地の律法を定める。ようするに天則は天地の律法であり、天地の律法を定めることは天則に従うということになる。天則というのは本来、あらゆるすべとか森羅万象とかそういうものだ。あらゆるすべてを司る森羅万象を司る偉大な物理法則

だ。当然（とうぜん）そういう類（たぐい）のものは人智（じんち）を遙（はる）かに超（こ）えた存在（そんざい）。物理法則（ぶつりほうそく）とか真理真相（しんりしんそう）と言（い）ったところで人間（にんげん）が言（い）っているに過ぎ（す）ない。森羅万象（しんらばんしやう）を現（あらわ）すために表現（ひょうげん）しているに過ぎ（す）ない。それ自体（じたい）が森羅万象（しんらばんしやう）そのものでは無い。

あらゆるすべ（い）たと言（い）ったとする（た）らう。あらゆるすべ（い）と（い）言（い）つても、意味（いみ）しているところはすべ（い）てあらゆる（にんげん）なんだけれども、認識（にんしき）している人間（にんげん）にはあらゆるすべ（い）ては、認識（にんしき）できない。言（い）った人間（にんげん）もすべ（い）てを掴（つか）んでいるのではない。言（い）った人（ひと）も聞（き）いた人（ひと）もあらゆるすべ（い）てを把握（はあく）していない。内容（ないよう）も意味（いみ）は所詮（しよせん）人間（にんげん）の解釈（かいしやく）に理解（りかい）力（りき）に委（ゆ）ねる（し）かない。あらゆるすべ（い）て、それ（こゝそ）そのもの（にんげん）は人間（にんげん）に表現（ひょうげん）でき（る）たぐい（で）はない。

国祖（こくそ）の決（き）めた五情（ごじやう）の戒律（かいりつ）という（は）天則（てんそく）遵守（じゆんしゆ）という（は）もの（にんげん）だ。天則（てんそく）遵守（じゆんしゆ）という（は）律法（りつぽう）を決（き）めそれを天則（てんそく）に置（お）き換（か）えていく。つまり本来（ほんらい）、天則（てんそく）のある（にんげん）ところ（に）三五教（さんごきやう）の決（き）めた教義（きやうぎ）が溢（あふ）れる。三五教（さんごきやう）の決（き）めた教義（きやうぎ）は天則（てんそく）遵守（じゆんしゆ）である（にんげん）から三五教（さんごきやう）の教義（きやうぎ）に従（したが）うことが天則（てんそく）に遵守（じゆんしゆ）である（にんげん）という教義（きやうぎ）に天則（てんそく）をす（か）り替（か）える。この教義（きやうぎ）、この型（かた）が地球（ちきう）に広（ひろ）ま（つ）ていくわけ。その結果（けつこ）、天然（てんねん）を文明（ぶんめい）に変（か）え自然（じぜん）を人工（じんこう）に変（か）える（にんげん）つてのが当（あた）り前（まえ）になる。

ただ（にんげん）そういう（にんげん）ことを（にんげん）していると人間（にんげん）は本来（ほんらい）ある（にんげん）べき姿（すがた）の天然（てんねん）と（にんげん）の一体化（いつたいか）が薄（うす）れてくる。人間（にんげん）は天然（てんねん）と生（い）きている（にんげん）んだ（にんげん）けど天然（てんねん）を人間（にんげん）の（にんげん）人智（じんち）に置（お）き換（か）えて（にんげん）しま（う）と（にんげん）その時点（じてん）で（にんげん）その人間（にんげん）は天然（てんねん）とシンクロ（しんくろ）出来（でき）なく（にんげん）なる。

我（われ）は普段（ふだん）組織（そしき）を作（つく）り社会（しやかい）を作（つく）り文明（ぶんめい）を作（つく）る。天然（てんねん）を文明（ぶんめい）に変（か）え森羅万象（しんらばんしやう）と切斷（せつだん）し天然（てんねん）を失（うしな）うと天然（てんねん）からの栄養（えいよう）つまり、あらゆる（にんげん）すべ（い）てからの栄養（えいよう）が供給（ききやう）され（にんげん）ない。本来（ほんらい）有限（ゆうげん）の力（りき）の時空間（じくかん）の背後（はいご）の場（ば）は無限（むげん）の領域（りやういき）から界（かい）を支（さ）え、有限（ゆうげん）が無限（むげん）に落（お）ち込（こ）ま（にんげん）ない（にんげん）ように支（さ）えて（にんげん）場（ば）は生（い）きとし生（い）ける（にんげん）もの（にんげん）すべ（い）てに命（いのち）を（にんげん）与（あた）えている。



当然人間は家を建てる。家つて人間の住むところで必要だ。でも本来天然のご意向に従うべきであるが、天然とアクセスできない人間は本来あるべき姿の家からかけ離れた家を人間の都合で建てる。それが当たり前になった。かつての天然とシンクロしていたころの縄文時代では環境破壊も無いが、今は資源の枯渇も深刻な環境破壊や環境問題が起きている。三十五万年前も一万二千年前もそうだった。もともと人間が天然と同調していれば何の問題も無いのに、人間が人智を天然と同調しなくなったことにより問題が生じた。

本来人間の「人智」というものは、天然と同調出来るはずなんだが、天然と共鳴出来るんだが、国祖が同調でなくて天則を人智英知の教義に置き換える。その教義は天則との同調でないゆえに、それが雛形になり今、多くの地球人類は天則との一体感を保てない。

天然自然をイメージも理解も想像することさえ出来なくなった。天然との同調で十分に得られるはずの必要な情報もエネルギーも取り出せない。そこで人類は英知を結集し武器を作り機械を作り、天然から資源を搾取する。天然が守ってくれないなら自分で身を守るしかない。当然外敵から守るために戦争が起こる。

自然界の生き物のように人間の生きた細胞も自然からの摂理で生きているが、物心付く前に光明思想に傾かせ森羅万象を見ないように訓練される。組織自体に、天然のつけ込む余地がない。組織は己が地位を守ろうとする。自分を守るために他人の富を略奪することもある。日常化し強い者勝ちの世になる。戦争が戦争を生み、今まさに巨大戦争が起きようとしている。物語では三十五万年前や一万二千年前に不満が頂点に達した時、大洪水や大戦争が起きたという。国祖の政策は平和を叫びながら戦争の火種を撒き散らす。

## 教義の違法

教義は天則でない。真理は法則によつて示される。法則を研究することが真理を研究することになるが、法則は真理ではない。故に真理を法則に置き換えてはいけない。しかし国祖は天則を教義に置き換えた。とつすると我我の身の回りはみな天則そのものを考えるのではなく、天則を教義に置き換え、真理を法則に置き換え、森羅万象を光明思想に置き換え、天然を文明に置き換え、自然を人工に置き換えることになる。本来人間の英知は、天則との同調で天然の英知から援助を受けることで最高の性能を発揮する。

天然にあるはずの本来あるべき姿の文明なら、機械や道路やパソコンやテレビや家やビルもホテルも工場もショッピン街も公園もホテルも自然と同調するはずだが、同調とはどういうことか。今の地球はそのイマジネーションも感性も湧かなくなっている。国祖が本来の地球の原型を破壊したから皆が皆そうなるであらう。このまま国祖の再臨が完了したら地球の原型である、あらゆるすべての運動は破壊される。太古から艮の金神が警告した、この事態に国祖以来三五教は全く対応して無い。

置き換えていけば教義も法則も階層構造になるだろう。一つの根源的存在が在って根源が全体を統治するつていうことになる。当然そういうことをするとそうなる。トップはいよ。何でも出来て一番上なんだから。組織が巨大化すればするほどトップの持つている権限や財力も地位も果てしなく大きくなる。しかし末端は面白くない。上層部に富を搾取されるわけでも面白くない。当然下は上に上がろうとして下克上が起こるわけだけ。

お金というものは貧乏人から大金持ちの元に集まる。その結果、多くの貧乏人と巨万の

富を蓄積した少数の大富豪に二極化する構造が問題だ。貨幣経済が発達すればするほど持てる者と持たざる者の格差は拡大する。お金は階層構造による統治の必須であり必然だ。国祖は自らの政策がお金を生み出す雛形になったことを認めない。お金はこの世の滅びの元というに、何故お金を使う。お金を生み出す土壌を作りながら国祖はお金に反対する。国祖自身が生み出しているのに変。

法則も戒律も律法も決まり事だ。決まり事に従つてやればやるほど、決まり事の法則に適合した者が勝ち残る。飯、食つてるときも風呂入つてるときも恋人といちやついても何やつても決まり事に一挙一動一語一句が最適化という人が必ず勝ち残る。何をしても最適になるからだ。ところがその決まり事に合わない人もいる。何やつてもそのルールでは、煩惱にしか成らんという人。そういう人が緊張したところで矛盾にしか成らない。緊張つても頑張つても適合できない。落ちるしかない。

決まり事を決めそれに従う。向き不向きが勝組と負組を生み下克上を生み争いを生む。トップが一人で末端が多数だから問題が生じる。勝負を決すれば勝者が増え敗者が減るでないと治まらない。大金持ちばかりが溢れかえり、貧乏な人ほど少ないという経済でないと治まらない。勝負が戦いで決するから勝者が減つて敗者が増える。それは競争すること優劣を決めるからだ。競争は比べることであり比の和で森羅万象の完全無欠と差がないように最適化しない欠陥がある。

例えば数が在るだろう。実際に実在するのはゼロかイチだ。在るか無いかだが、イチ、二、サン、シ、ゴ、ロク、シチ、ハチ、キュウ、ジュウとか、林檎が一個二個というだろう。だが林檎のあらゆるすべての構成要素を考えた場合、実際にあるのはゼロとイチしか

ない。林檎一個二個というのは一般に林檎という名前が付いている物の共通項で考えたものでそれ以外の一個一個の色艶形匂いなどは考えていない。林檎という共通項で考えたわけです。それ以外の要素はすべて排除している。

あらゆるすべてを考慮に入れたら数はゼロとイチしか無い。二個三個と数えるのは個性がない。林檎という概念の平均値だ。個性や特徴や違いを考えない事にして、排除していい。違うというのは違反だ。同じであるということを強制される。数の実在はゼロとイチでありゼロとイチ以外の数の運用は微分積分の範囲内である。在るか無いかしかないなら比べることは出来ない。一個しかないなら比べようがない。本来固有なそれ自体が一個しかないのだから勝敗は付かない。

競争するのはルールで決めるが、オリジナルの一個ではそれ自体しかないから競争は、本来存在しえない。人間は一人。皆一つ。それを争わせるのは不幸だ。国祖は基準に従うことを民に求めた。規格はその合格か不合格を巡る争いを起し、互いに競争する世が出来た。自由行動が争いを起こしたのではない。基準に従い優劣を比べる世の中が争いを起こすのだ。

組織つていうのは構成要素で成り立っている。我我は組織を維持するために規格に合わせなければいけない。しかし規格に適合できた人は簡単だが、合わない人は難しい。人間はみな違う。千差万別。決まった規格に合わせるとストレスがたまる。

同じ姿勢を長時間続けるときついだろう。健康な人なら歩いているだけならピクニツクで続けて四時間歩けるだろう。しかし背筋から指先までをびしつと伸ばして、直立不動の姿勢を四時間続けるのは大変。ましてや、片足で四時間も立ち続けるのは健康な人でも、

不可能に近い。

受験戦争に適合した無敵の受験戦争職業軍人は必ず受験戦争に勝つ。しかし、受験戦争を行うこと自体が苦手という人もいる。こういつた人は人生において初めから逆風の中で生きなければならぬ。今の日本は経済戦争と受験戦争の弱肉強食だ。この流れに乗れる人は人生は初めから最後まで追い風の中で悠悠自適だが、乗れない人は最初から最後まで逆風の中で不利な生活を強いられる。

偏差値が高い進学校ほど経済的に恵まれ部活に多くが参加し中退も少なく学費の未納も少ない。しかし偏差値の低い学校ほど経済的に恵まれず部活に参加する人も少なく中退も多く学費の未納も多い。初めから人生は幸運不運がはつきり決まっている。流れに乗れる乗れないの差がはつきりである。個人では動かしようがない。

人生において初めつから、追い風の人、向い風の人が決まっているからだ。今の社会のルールでは勝負は戦う前に決している。努力では勝てない。社会の構成に適合出来る人は初めから勝組だ。適合できなければ戦う前にもうすでに負組だ。不利な人は最初から最後まで不利な人生。有利な人は初めから最後まで有利に展開する。

決まりだから守らねばでは、不利な人は不利だと分かっている不利を選択せざるおえない。いやでも選択しなければ敵前逃亡で負け。勝負しても才能の無い奴はある奴に勝てない。結局勝負は初めから着いている。負組はいつまで経っても敗者。

歩くのが得意、立つのが得意という人もいれば苦手な人もいる。努力だけでは埋らないこの現実。確かに多くの人は歩けるし立てるが、体が悪くて歩けない人もいるし立てない人もいる。向き不向きの個人差があるのに規格を決め勝負を決する。決まり事を決めそれ

を守る。トップは自分に有利な規格を作ろうとするし、これでは特定の団体や組織に有利な規格なんかが出来る。皆に有利な規格となるが千差万別の個人に有利では結局規格は纏まらない。

## 律法の違法

国祖は自分はトップ。自分が頂点に立ち治めるといふ。だがそれは国祖が国祖のしたいやり方で治めるといふことだ。だから国祖に合わない民は未来永劫浮かばれない。国祖に合わせる民にとつてストレスだから民は国祖に反旗を翻す。最初立派に治まっていた神政が崩壊した理由だ。最初は自分にもチャンスがあると思えども結局はルールに適合した人が勝ち残る。努力しても才能が在る奴にはかなわないと分かってくる。トップに使われるだけのつまらない人生。それが国祖の政策。民衆が暴動を起こすわけだ。

国祖は世を治められる器は自分しかない。自分と自負心がある。自分をトップにすれば治められると信じている。国祖は、自分の政策が民衆を凶暴にしている気が付かない。信じ切つてゐる国祖は民が、何でも俺たちが国祖の主義主張を実践する産業機械になりやないやいけないんだと反発しているのに、信じ切つてゐる国祖は全く耳に聞こえず見えてもして無なのだ。国祖は自分が治めるなら仁政を敷き民を愛して平和をなさんと欲したが民衆は支持しない。

階層構造は末端が少なくトップが多いというのはいふまでもない。階層構造はトップは一人である。上に行く人ほど少ないから問題が生じるんだ。階層構造は勝者が少ない敗者が多



いという構造が問題の原因になつてゐる。それが階層構造なら、その反対、恵まれた豊かな人ほど多くて貧しい者ほど少ないという勝者が多く敗者が少ないという構造原理を樹立すればいいということだ。

国祖は早く自分がトップに立つて民を愛でて、地球を平和に治めたいと願つてゐた。しかし国祖は自分の政策が、地球に戦乱をもたらしているとは考えても気づいてゐないのだ。国祖の政策が民衆の反発を買うのは当たり前だ。国祖は自分くらい民を愛して平和を真剣に考えている者はいないと信じ切つてゐるから、自分が上に立つて号令すれば世は収まりがつくと、信じ切つてゐる。

国祖はああやつてこうやつてとか、あそこはああしてこうすればいいと一人思つて焦つてゐた。なぜだ。私のいうとおりに運営すれば治まりがつくはずだと信じてゐる。しかし三十五万年前の時点で国祖の政策に合わせなければ成らなかつた民衆にとつて大変な負担だつたのだ。

国祖の政策は確かにその通りだが、何が何でも国祖の規格基準に合わせねばならなかつた民衆は逆らえば厳しく罰する国祖が嫌い。上に立つ国祖の基準から見れば正しくても、民の立場から見れば全く評価が違い間違いで、国祖が過ちと判断しても民から見れば正しいといふこともある。

国祖の基準で合わせねばならないから民に不満が起こる。天地の律法五情の戒律は何でも民衆の問題を解決してくれるかというところではない。天地の律法五情の戒律も法律も違法か合法かであつて問題の解決策ではない。合法なら無罪で違法なら罰せられる。合法なら何をしてもいいのだがそれは万事解決する完璧な解答には成らない。誰でもテストで

百点とれる方法は示されていない。誰でも百メートルを十秒で走れるわけではない。

豊かな財産を生み出す方法は示されていない。日常の生活の糧となる具体的実践方法は何も出てない。いつも完璧で正しい方法を保証してはくれない。天地の律法五情の戒律があらゆるすべてを解決する万能ではない。国祖に従えば地球のすべての艱難が解決するかどうかというそうではない。国祖のご意向で地球のすべてが丸く収まるなら民衆は国祖に従うよ。しかし国祖は民衆の不満や困難に何ら解決を示さない。

国祖は天地の律法五情の戒律の違反者を厳罰するだけ。ほかには何もせん。しかし従わねばならないということがだんだん民に分かつてくる。国祖は民衆のためにと一所懸命だ。民衆が幸せになれる納得のいくものではない。民衆が国祖に反対するのは民衆が納得いくものではない。幸せになれるものではないからだ。

ではどうするのか。まづ先にすることは国祖を排除することでしょう。トップを決め全体を統治する。全体を統治する権限がトップにあると一体誰が証明した。誰も証明できていない。トップが律法を定め全体を統治するしかたを排除することだ。

国祖はみんな仲良くせよと言っているのになぜ仲良くしないのかというわけ。しかし、大国彦や常世彦は攻めてくる。彼らの勢力が攻めてくるのに仲良くせよとはいかなることか。彼らが挑んでくる理由を国祖はどう考えていたか。それは国祖が自分がトップなら世が治まるというように型の仕組みが働いて、大国彦も常世彦も自分がトップなら世が治まるというんだ。

では国祖がトップに就く理由はなんだ。理由はない。国常立命が自分で決めたからだ。だったら大国彦も常世彦も自らの正当性をアピールする。当然本家元祖争いが起こる。そ



れが国祖に挑んでくる理由だ。国常立命は天則に教義を以て挑んだから大國彦や常世彦に挑まれる。国常立命が教義を以て天則に実るほど頭の下がる稲穂かなであれば、大國彦も常世彦も天則に頭を下けたろう。国常立命が戒律で押さえつけるから、戒律に押さえつけられるのだ。国常立命が民や天然を苦しめるから国祖は苦しみを味わう因果応報だ。

天地の律法五情の戒律嚴罰主義は多くの民にとつてメリツトがない。そこで民に不満が起ころ。そこに大國彦と常世彦が現れる。彼らはいう。自分が治めるなら律法に違反したら即、罰することはしない。成功と失敗を天秤に掛け実績が過失を上回るなら大目に見ると。民は大國彦と常世彦を支持し、彼らは巨大な勢力を築く。

彼らは国常立命に挑んでくる。天之浮船で攻めてくる。そこで大八洲彦命は、破軍の剣で撃退するが多くの戦死者が出る。その時、常世彦の息の掛かった敵のスパイが国常立命に大八洲彦命は殺生するなかれの戒律を破つたという。これは、彼らの策謀だが国常立命は、大八洲彦命を守らない。

あれだけ実績を上げながら、国常立命は自らのために働く優秀な人材を左遷する。してやつたりと大國彦と常世彦。あれだけ優秀な大八洲彦命さえ実績を上げたのに国常立命はつまらない過失で左遷だ。大体攻めてきたのは常世彦や大國彦だ。正当防衛を無益な殺生と判断する国常立命は何を考えているのか。更迭を進言するのは常世彦や大國彦の企みと分かりそうなものだ。わざわざ嵌められ有能な人材を失うとは。国常立命は駄目だ。自分たちが国常立命の元についても出世も出来ずお払い箱だと民衆は皆、噂した。

その点、大國彦さまや常世彦さまはい。実績と過失を天秤にかけ実績があれば過失を大目に見る。実績が在れば出世の使放題だ。才覚が在れば拔擢してくれる。上に立つ者は

大國彦さまや常世彦さまのようでなければ成らないと民は言った。  
そこで恐れ多いと思いつつ、良の金神の毎回当たり障りのある報告になる。国祖以来、  
別室部長には、受け入れ難いかも知れないが良薬口に苦しだ。戦前、初代別室部長、国祖  
は良の金神の役目をしてどれほど自分の政策が迷惑か身を以て知ったはずだ。

### 国祖の相克の真実

受験勉強受験英語が全く通じないことは分かっている。だが実際に使える英語にしよう  
とは政府はしない。なぜならそれは教育制度の根本的改革になるからだ。そうすると学校  
の教師を教育仕直さねばならないし、教科書も全部作り直さねばならない。当然、教室で  
生徒に教える授業もやり直し。そうすると教師は授業で生徒になんと説明するか、説明で  
きやしない。先生が生徒に、今まで嘘を教えましたといえまい。驚天動地の天地がひつ  
くり返るこのアとザ。

そんな大変革が起されれば職を失うかもしれない。それを恐れる先生の飯の種のために、  
日本の生徒は不当な授業を強制されている。政府を操る別室は自分たちが築いた三五教を  
作り直さねば成らなくなることを恐れている。だが、これが構造改革だ。ほかに何をして  
も、うまくは行かない。だがアとザさえ正直出来れば構造改革が完成できる。

これは国祖の時代からそうだ。国祖は三五教を改革せねばならないと感じつつ、改革に  
踏み切れなかった。だが三五教の元締め別室は日本の国も受験勉強も改革をせねばと言  
いながら一向に埒が明かない。改革も改善ももとが正しいなら成功する。国祖が正しいな

らとつくに成功しただろう。三五教が改革に失敗するのは国祖が悪だからだ。受験勉強を見よ。政府が法律で何をしてくれる。何もしてくれまい。

靈界物語を見よ。国祖は悪人に寛大で、善人には冷酷だ。大八洲彦命のどこに過失がある。破軍の剣の使用は天之磐船の大軍団が攻めてきたからだ。圧倒的な軍力で攻め立てられ防戦一方で仕方なく使用した立派な正当防衛だ。大軍団は誰の命令で国祖を攻めた。基地の司令に命じた者が首謀者だ。だったらそいつを罰するのが筋だ。だが国祖は首謀者を探しだし、その真意さえ問いたそうとさえしなかった。

国祖が至厳至直でならすなら何故、国祖は一所懸命正直する善人を断罪し裏で悪巧みする者を処罰しない。悪人が五情の戒律で過ちを犯しても罰しないが善人が五情の戒律で過ちを犯すと断罪する。いかに過ちを犯した人をとがめてはいけなと言いつつも、悪人がお構いなしで善人が罰せられたら誰も善を自らしようとしなない。

常世彦や大国彦は自らの悪を棚に上げ国常立命をいじめる。国常立命はこの態度を民に取った。国常立命さえ常世彦や大国彦のこの態度に反発したように民が、国常立命に反発するのは当然だ。国常立命自身をみよ。自分だつて嫌がる自分の態度。それをなぜ気が付かない。悪人が正直する人を操り正直する人から甘い汁を吸い、正直する人を誤らせ悪人の責任をなすりつけることを善人が黙って泣き寝入りするしかない。

善人が泣き寝入りするしかない政策を国祖が執ったから、型の仕組みが働いて国祖が泣き寝入りすることになったのだ。靈界物語では国常立命が善で常世彦や大国彦が悪と書かれている。だが型の仕組みからすれば常世彦や大国彦は国常立命や素盞鳴命の影にすぎない。バラモン教やウラル教が悪をなすのは三五教が悪をなすからだ。

そのことは国常立命や素盞鳴命にも分かつていたが、三、五教のどこが悪いのか分かつた。国常立命や素盞鳴命は三、五教のどこがバラモン教やウラル教に劣っているか分らない。国常立命や素盞鳴命は自分たちは地球のために、不退転の覚悟でしているのに、何故民は支持してくれないのかと思つていた。だがそれは国常立命や素盞鳴命が三、五教の元締めだから元締めの立場でしか行動しないからだ。民の迷惑を民の側で見えていないからだ。

国常立命や素盞鳴命の行動を国祖が民の立場で見てみれば、大國彦や常世彦が国常立命や素盞鳴命にしていることと寸分違わぬ。国常立命や素盞鳴命が大國彦や常世彦を嫌な奴と思ふように、民衆にとつて国常立命や素盞鳴命くらい嫌な奴はいない。民が嫌がるのに民が支持するはずない。民が支持しないのは民から見れば一所懸命、正直しても五情の戒律に違反したと罰せられ、明らかに五情の戒律に違反しているのに、用心深く策謀を巡らせば罰せられない三、五教の裁きを民が迷惑と感ずるのは当たり前だからだ。

何故、大八洲彦命が正当防衛でないのか、何故、国常立命を攻めた常世彦は何のお咎めもなしか。これでは国常立命が公正な主催者であると民が評価するはずなからう。戦前、大日本帝国は道彦の再来の王仁を罰し、日本を破滅への戦争に導いた東条秀樹や近衛文麿を何故自ら罰しない。国常立命が自分で道彦に、常世會議の陰謀を調べ、出来ることなら潰してこいつなぎを付けたから、道彦は常世會議の陰謀を潰した。

三、五教は道彦に密書の送信の仕方まで指示していない。靈界物語で道彦は、我に秘策ありと密書を送つた。それを国常立命に差し出さなかつたのは獅子身中の虫の独断専行である。

鬼武彦は常世彦の目の前で国常立命に言った。我我はあなたの指示で動いた。あなたに詳細な報告もした。あなたが常世会議の陰謀を潰せと仰ったから潰したにすぎない。あなたも三千世界を一目で見渡せるといふなら常世彦の陰謀を見切れるはずだ。だつたらこの場で常世彦の謀略を指摘し、常世彦に正直させてみればいいではないか。いかに常世彦の手前とはいへ常世彦の数数の不正を黙認し、正直の限りを尽くした部下の諸神ばかり罰して何が国常立命か。民が国祖をあざ笑うのは当然だと思わないのかと言つたのだ。

だがこの時、国祖は道彦の密書の存在を知らない。ましてや、その密書の真意を知らない。戦前、王仁を潰した東条英機や近衛文麿は王仁の活動の詳細を皇室や別室に報告しない。それは道彦の活動を獅子身中の虫が国祖に報告せず国祖が判断を誤つた再来だ。

### 靈界物語の言霊は外国語

これが靈界物語とどんな関係があるのか。当時二大勢力であつた常世彦と大国彦の提唱していたことだ。それは現代に当てはめてみると初代常世彦は、盤古大神を神としてウル教を開く。これは今のロシアが勢力圏だ。それはカミイヅムに対応し、カミイヅムは中国もそうで中国の神話の盤古に盤古大神は対応する。初代常世彦のウラル教の教えは盤古大神の思想で、それは盤古を祖神に頂く中国にその教えが色濃く反映している。それは中国語の漢語の奥義なのだ。

同時にその時代のもう一つの大勢力、大国彦の思想はのちに二代目常世彦が大国彦を祭るバラモン教の思想になる。これは北米大陸が勢力圏だ。つまり現代のアメリカに対応す

る。アメリカは英語文化圏で英語の奥義に大国彦の主張が込められている。

現代もそうだがアメリカから日本を見るとどう見えるかということは、大国彦の視点から国常立命がどう見えるかということなんだ。アメリカにしてみれば母国語をなんで改悪するのか。ドスは誠に使う。デスを嘘に使う。なのにデスを使うというなら日本人は皆嘘つきなのか。ドス デルは英語文化圏たるアメリカの米国大統領執務室別室を頂点とする免疫系でありナチュラルキラー細胞だ。

デス キルなら米国大統領執務室別室に取って代わろうとするきか。あんなアメリカに侵略してきたのかと思うだろう。霊界物語の時代からそうなんだ。三五教は知らず知らずにウラル教バラモン教のいう悪中の悪を言っているのだ。ではどうして正直しないの。なんで正直に気が付かないの。三五教の勢力圏でデス使うなら使うでいいがバラモン教やウラル教の勢力圏で使うのはやめよということになる。

今の日本のは、言霊とは申さんぞよと国祖が言つたのは、古代日本語にはあつたのだが現代日本語にはなくなつたからで、それはまさに古代漢語英語日本語にはありながら漢語や英語で発達し、日本語では廃れた、何かこそが日の元に源を発し他国で育つた言霊である

と国祖が言つた一厘の仕組みである。

で、それは何かということだ。それには漢語と英語と日本語の違いを引き立たせてみれば分かる。日本語文化圏と漢語文化圏や英語文化圏の違いは、音声に対する生の実感の差だ。原語本来の発音を日本人が聞いた時と、原語を使う人が聞いた時とは、感じる生の実感がひっくり返っている語がある。これは生の実感でそうなる。実は言霊というのはアザムのことだ。言霊というのはあらゆるすべてのことだから漢語や英語のあらゆるすべて



の中から必要を選択し不要を排除する用語の働きを示す。

しかしアザムそのものが失われた現代日本語 ジャパン ジャパニーズを日本語だとする人からは、アザムがジャパン ジャパニーズに見えるだろう。そしてジャパン チャイニーズやジャパン イングリッシュをチャイニーズやイングリッシュといつて漢語文化圏や英語文化圏から遅れを取り、国際外交で相手にされず、孤立化を防ぐために援助の名目で大金を使い、体面だけを繕う外交しかできないことになるだろう。このことは現在でも繰り返される。

アメリカでコンピュータが大発展したのは、アメリカにチップに埋め込むための必要な基礎理論が発達して書き込める条件が整っていたからだ。それは、表田の使い方であるオペレーティングシステムの進化、エムエス・ドス ハブの取入れて拡張せよによく出ている。マイクロソフトが発展したのは、米国執務室別室にマイクロソフトは別室のドス カルチャーであると自認してきたから別室の根回しが成功したからだろう。

パソコンの開発の歴史がそうだ。チップの上に配列した素子で形成された回路をプログラムの通りに演算させるマイクロプロセッサが誕生した時、それが始まった。そこからこうすればこうなるならこうしたらどうなるかこうすればこうなるならこうしようが繰り返されムーアの法則はチップを進化させた。

アメリカが日本語で、最終兵器悪魔の呪いの麻薬ケツケツケツケというような製品を開発し販売しようとしたら日本はやめさせるだろう。それがアメリカの大義だ。世界の民はアメリカの言い分をもつともなりと判断した。それがアメリカの世界戦略につながっていく。国際外交でジャパン チャイニーズを出したら、それはチャイナ チャイニーズ

である。ジャパン イングリッシュを出したらそれはイングリシユカル イングリッシュだ。バツシングされ国際外交の席では通じないよ。

トロン潰しの口実だ。オーエスでトロンというのを作ろうとした。丁度そのころの日本は貿易黒字が大きいのでバツシングされていた。トロンは優秀であつたがコム違反に問われその開発は腰砕けになつてしまつた。コム違反に問われたのはアメリカが国益を守るためにトロン潰しを仕掛けたといわれているが問題はその口実だ。アメリカがトロンに待ったを掛けたその理由だ。トロンは英語だ。英語でトロンはデス ワードだ。つまりエムエス・デス ヘビーで、デス／ブイなわけ。

チャイニーズやイングリッシュを出せば国際外交の席で立派に通じる。ならジャパニーズはなに。説明してみせよ。トロンは有害語だから潰された。それはアメリカの正当防衛であり当然だ。だからデス ワードのドロンだといえどアメリカの大義は通じない。日本は国際外交で立派に通用したろう。日本国内でトロンなら英語文化圏ではドロンといえどわからんでもない。日本人がデス ワードというならアメリカはデス ワードだ。それなら分かるが英語文化圏でトロンはゆるさんということになる。

例えば、エス イー エックス。これは英語ではシックスだが、日本語ではセックスというだろう。だが英語ではセックスはエス アイ エックスでこれは六のことだ。これは英語文化圏の人ならヨハネの黙示録の六六六を連想するだろう。実は、そうなんだ。これは生理の生の実感での感じ方だ。そこでだ。人間には聞いた音声で感じる原初の感じがあら。それがクリエイティブなら肯定に真善美愛に使うべきであり、ネガティブなら否定に虚悪醜憎に使うべきだろう。



日本人はなんでそれを言わないのか。なんで嘘を付くのか。なんで間違いに気が付かないのか。それは悪だからだ。善はウラル教やバラモン教だ、ということになる。いまだきの受験戦争の偏差値文明。経済戦争の売り上げ文化。知恵と学で出来た受験企業戦士にはまったく耳に入らない。学校の英語の教科書に出ていた日本人の太郎君の自己紹介、アイム ア ジヤパニーズ、それを嘘と申すぞよ。日本人つまり三五教はこのバラモン教やウラル教の長所、口頭の使い方に気が付かなかつた。

それで今の今まで日本の別室は知らなかつた。口頭での正直は口頭で場とコンタクトすることだ。場、それはあらゆるすべて。そこから必要選択不要排除を行う方法だ。イメージすればそこにはイメージの原型になつた何かがある。それはどこにあるか。それはあらゆるすべてにある。そこから必要を選択し不要を排除するにはどうするか。

人間の活動によりて変化する領域と変化しない領域とに分け、変化する領域から、より高度な必要を選択し不要を排除して行く。こうして練り上げたイメージを更に推敲し変化する領域からよりよい成分を集めていく。これを繰り返す。

英語や漢語のように他国語では変化する領域と変化しない領域を区別しやすく現す用語と、必要を取り出し不要を取り消しやすくするのに便利な用語が発達した。それは、係り言葉みたいなものだ。ここを認識しないところに日本人が外国語べたな原因がある。アナナイ教の欠陥がある。日本語でもそのままというし、なんだんてをあんだんてというだろう。変化するほうではザ ドス ハブと、ア デス ヘビーとでもいうべきである。

変化しないほうでは、オン イエス ドウト、オフ ノー ノットを使うのだ。ペンを

ア ペンだと鉛筆でない、ザ ペンだと鉛筆であるになる。アイム ア ジャパニーズの太郎君は英語では嘘つきである。英語ではうまい酒を飲んだときハブで、不味いときはヘビーという。英語のハブは日本語では省みるで、英語でスネークとは言わんが日本人は、沖繩にいるスネークという。ヘビーは英語ではだめだ、いらんよとかいう。

これは異なつた言語に遭遇した時によく起こる混乱だ。そこで英語ではアなのかザなのかを相手が理解しているかないのかが根本になる。どうしてこだわるのか。それは英語の根本だからだ。相手がアなのかザなのか確定し、ヘビーだつたらデス。ハブだつたらドスを対応させるのだ。これが英語のクリエイティブな根源だ。

アメリカは世界から移民を受け入れ様様な文化文明を受け入れる。その中でより良いものを取り入れていく。それは表田の使い方だ。ザ ハブやア ヘビーが必要でア ハブとかザ ヘビーは要らん。このザ ハブやア ヘビーを更に練り上げ、さらにザ ハブを推しア ハブとか、ザ ヘビーを排除する。

本来は漢語や英語の使い方が正しいのだ。今の日本語はねじれている。用語本来の作用がねじれているのだ。漢語や英語の用語の使い方は自由行動を増長する。自由行動を禁止した三五教は当然日本語から自由行動を排除する。当然日本語から日本語の中にもともとあつた自由行動を現す用語は消えてなくなつていつた。それが漢語や英語での当たり前、田圃の田の字を描く他国語言霊お筆先の一厘の仕組みだ。現代の日本語がぐちゃぐちゃだから、外国語を輸入して、田圃の田の字を描く他国語に加工すればいいのだ。

日本語が失つたアザムとは隠身言霊だ。商品品物御用加工貿易で日本が栄えたから今度は言葉単語用語加工貿易を展開すればいいのだ。三五教はなんでアザムの使い方が不明瞭

なのか。そこにはアザムの介在する余地が無い。ということは日本語にはアザムが無い。アザムを言語の前提とすれば、現代日本語は言語ではないということだ。アザムがジャパニーズならいまだきの日本語はジャパニーズではない。

学校ではジャパンチャイニーズやジャパン イングリッシュだ。現代日本語はチャイニーズやイングリッシュの部類ではないのだ。ジャパンチャイニーズは、チャイナチャイニーズだ。ジャパン イングリッシュはイングリシカルイングリッシュだ。現代日本語はジャパンチャイニーズとジャパン イングリッシュだから今の日本語は、ジャパン ジャパニーズだ。

三十五万年前からそうなわけ。なんで三五教はバラモン教やウラル教の悪言醜詞をばら撒くのか。口頭で善言美詩なら、無主夢従のアザ明瞭だが、夢主無従になつてゐるではないか。アザ不可解になつてゐるじゃないか。改悪ばかりしやがつて俺たちがどんなに正直しても三五教がすぐに改悪しやがるということになる。世界の民草はその通りと判断したらバラモン教やウラル教を支持した。

地球の民は皆、自由行動がいいといつてゐるのに自由行動を弾圧する政策をとる。民草が言つてゐるのに別室部長には聞こえないとは、いかなることか。

### 別室部長と良の金神の違い

有ると無いの関係は絶対ではない。有るが無いになり、無いが有るになる。だがそこには自ずと出来る出来ないが有る。人間は成長し昨日出来なくとも今日出来ることもある。

有ると無いには、原型が場にある。有ると無いの関係は各地で言霊を推敲し磨かれた。それは基本的に共通の共鳴構造をしている。そしてこれらは場力共鳴をいかに成すかの結晶である。腸脳を調べれば場力共鳴発電を物理的に検出できる。腸脳発電を伴わない表田は大したことない。

場力共鳴は量子呼吸であり量子を使えば場力共鳴を検出できる。量子呼吸を起こす装置が出来れば場力共鳴を起こせるから量子呼吸装置で腸脳発電を起こせる。有無を超えた無も、逆裏対偶命題も、それを起こすのが、場であれば量子呼吸が起こる。時空の背後と繋がる。これがあらゆるすべての最適化を起こす。計算機と頭脳の差がここに有る。コンピュータと人間の差がここだ。だが今の地球人はこの差を理解していない。

神霊の宗教や物質の科学で、人類が幸せになるか。なるならとくに地球は収まっている。三五教が場と力の間を抑え、力から場に行くことを認めない。民は生きるも地獄、死んでも地獄だ。場や宇宙の真相に気づいても、誰にも相手にされないから言わない。地球が大成奉還で出来ていると思うか。宇宙文明では最初から大成奉還は出来ないといっている。

三五教は月人のリーダーを神に仕立てあげた。大神は偉大なりと唱え崇める。そこで、リーダーを敬うことの効能を説く。そこで例えとして神として崇める。それが、霊界物語の時代に宗教で神が發明される。偉大なるリーダーを神と崇めるのは当然という論法だ。月の指導者を持ち上げ、傳く。朝な夕なに大神のためと宮仕えするから宗教家に誰も反論も出来ずにいた。

同じ表田の使い方でも、ですますアイウエオ調和漢外来語混交文と仮名だけの文章とは

原理がまったく違う。混交文はなぜその文字を使うか、理由がない。漢字も訓読みも音読みもあり、ドイツ語系外来語も英語系外来語も何でもあり。

そのような文字を使う根拠は日本人の日本語的叙情感だ。叙情感に流された表田の使い方が、日本人から場力共鳴の感覚を麻痺させ、人間の決定を優先する社会制度を生み出していく。混交文は日本人が決めた、場を模索しない因果で出来ている。従って混交文には場力共鳴を模索する表田がない。日本人の御意向が決める表田は日本人の叙情感で配列が決まる。

文部科学スぺルに縄文の伝統の表田の使い方、エリア88もアザムもない。日本人はアザムや太占のエリア88を使わない。当然因果は崩されていく。そして隠身言霊が破壊されお化け幽霊になっている。経世済民は弱肉強食に食い物にされ強い者勝ちの世になる。成りあがった者たちは団結し権力を動かし、支配者は庶民のことを考えなくなる。

混交文を使ってみると非常に表田がしづらい。混交文は人間がまっとうに生きるすべてを説明できない。当然、法律は混交文と同じ発想だ。新しい概念ばかりが出てきて始末に終えない。混交文には表田のアザムもエリア88もない。

混淆文の歴史と支配の歴史を表田でみる。縄文が仮名であり有史以降が混淆文になっていく。英語や漢語が表田の仮名の伝統を継承していくなかで日本は仮名も表田も失われていく。日本では地球でのレッスンを終え進歩した星に転生する可能性はほとんどない。

法律では法律の不備を探し、法律の裏をかくことが出来る。法律の死角を使いより法律の精神に則ったことも出来る。法律を用い経世済民も出来れば反対の弱肉強食も出来る。だが合法か違法かは裁判で決まるが法律で想定されていないところをついて相手の弱みに

つけこんでも罪にはならない。人間が決めた決まりはすべてに對処出来ないから必ず隙がある。その隙をついて経世済民も出来る。自由を使いより模範的な判例の構築も出来る。資本の論理でも、法律を武器に立派な大義を掲げ大資本で株を買いあさり、大株主になり株価を吊り上げ漁夫の利を得たり、我田引水の政策を押し付けたり出来る。地球の法律は、弱肉強食を認めている。場は、場自身を決めるから人間の決めた事項は場を保証しないし法律は場を保証できない。法律ではいつまでたつても、人間に必要な生活は保証できない。法律そのものが場を考えてはいない。法律に場を扱わせるのには無理がある。人間はどうやつても場にお世話になるだけであつて一所懸命、場にご恩返しをするのが精一杯だ。だが、場を想定しない法律が人間と自然を切り離し地球人類は無限を見失う。地球人は自然にとつて都合のいいプロセスを、人間に都合のいいプロセスに変えた。だが人間にとつてだけ都合のいいプロセスを作つたが、それは自然にとつて甚だ都合が悪い。無限と切り離された表田は自然にとつて都合のいいプロセスこそが人間にとつて都合のいいプロセスであるという認識を失つた。自分で自分自身を決定できる自然の決定があらゆるすべてのことなのだ。表田は本来、自然と共鳴するための手段であり、人間の決定をこり押しするのに使う道具ではない。しかし人間は人間の才覚を人間のために使い自然のために使わない。人間の御意向より自然の御意向を優先することは法律により禁止される。自然の摂理に従えば、刑務所や病院に収容されることになる。団体の団に従わねば潰される。場を元に、自分の根源に由来した行動をとれば社会から制裁を受ける。なぜなら団体の団に従わねばならないからだ。法律を用いれば人間は場から離れていく。法律が法律を生み蓄積された法律は人間から



自由を奪い場との整合性がとれなくなる。そして先史の真実が失われ蓄積された有史を元に有限の表田が神霊や物質を考案し、法律や資本が体系化され戦争原理が支配する世になる。

湧き起こる戦乱を抑えるために地球連邦政府や世界統一宗教を作ることでもなれば、地球の場力共鳴は完全に息の根を止められる。連邦政府首席は、完全な独裁者になるだろう。なぜなら場と力と星の真相を消しさり、完全な情報操作でマインドコントロールする以外に治める方法はないからだ。

法律に準拠し企業活動で経世済民を目指した経営の神様たちが大きくした経済。だが、経営の成功は資本を増大させ激しい経済戦争をもたらした。これは経世済民を目指していたがその反対の弱肉強食を生み出した。そして法律の裏をかき法外な資本を濡れ手に粟する者を生み出す。弱肉強食が経世済民を食い潰そうとしている。

法律の隙をつくことが出来る。想定された以外を用い、より場に適うことも出来るし場から離れることも出来る。法律は場からそれることを禁止してはいない。場と一致すれば合法であり一致しなければ違法というふうになつていない。法律を使うことはそもそも、宇宙の物理に違反している。自由を支配することは滅びに繋がる。法律は場力共鳴を破壊し時空間免疫系を弱体化する。宇宙単一の法則である場力と星の法則に従えば全宇宙で生きていける。だが法律に従うのでは地球でさえ生きていけないだろう。

そもそも人間が決めた法律はあらゆるすべてに対応できない。法律は流れに乗ったものが勝つ。そこで我田引水しようと圧力団体が活動する。法律を動かす政治家に場を扱える政治家はいない。なぜなら政治家は争いに勝った者になる。そこに和を以て勝負を持ちだ

す者はいない。なぜならないからだ。政治の世界に場がない。理屈の表田しかない。存在しない觀念ばかりだ。

だから立派なことをいうが人間にとつて理想の生活の完全無欠と誤差がない生活を実現できない。政治では人間にとつて有るべき姿の生活がなんなのかを説明できない。人間の生活に深く関わりを持ちながら人間にとつて理想の生活を保証できない法律。

結局、我田引水を作りまたそれを壊しました我田引水してまた壊す。その繰り返しであり、それが地球を破壊する。法律は戦争を生みだし権力の温床になる。法律は支配する者と支配される者の敵対関係を生みだし永遠に争いを起こす。なぜなら未発見の未知に決して対処できないからだ。

法律に従い前例に従う。法律に従うことが重要でありその結果、有効な対策が取れなくとも法律に従えばよいということになる。そのため全く、組織は機能しない。上にたつ者は全く有効な手段をとれない。新しいことをするにしても未発見の未知に対処できないし場と連動し誤差を修正し完全無欠と寸分違わぬこともできない。

### 八王八頭と神宝の違法

歴史のいう縄文時代までは本格的な戦闘はなかった。縄文時代では人間は自由気ままに豊かで平等な社会を営んでいた。考古学の発掘調査で目立った戦闘の後が見当たらない。しかし縄文の終焉以降、城壁のある村が発掘され戦火が広がり始めたことがわかる。これは国造りが始まったからだ。国造りは階層構造化が起こる。縄文時代は森羅万象と一体化



していた。ところがそれ以降になると階層構造化のために戒律を定めそれに従うというふうになる。それは縄文時代の平等だった社会に階層が生じたことが遺跡からもわかる。

国祖が天地の律法五情の戒律を定めてから、地球では本格的に戦闘が起こるようになった。八尋殿とヒヒロカネは本来森羅万象と一体化する装置だ。八尋殿はピラミッドであり本来自然の山を加工して作る。古代では山のないところには石で築いたが、自然の山で作るのが正しい。ヒヒロカネはトリスメギストス、賢者の石だ。金属元素ならどれでもヒヒロカネにすることが出来る。

物語には、十二の八王八頭と神宝が出てくる。それは本来は八尋殿とヒヒロカネである。ところが国祖はそれを八王八頭と神宝に挿げ替える。八王八頭と神宝を使い、国祖の支配の道具にしてしまう。霊界物語では八王八頭と神宝が制定された頃から八尋殿本来の機能を失っていく。

霊界物語で八王八頭と神宝に変化する以前と以後は縄文時代と縄文終焉以降に当たる。歴史を見てみよう。霊界物語や古史古伝では縄文時代は八尋殿とヒヒロカネの時代だ。縄文時代の終焉以降の神社仏閣教会の時代は八王八頭と神宝に変化した以後の時代だ。

古史古伝や霊界物語の時代の遙か以前から続く八尋殿とヒヒロカネの時代。それは、縄文時代まで継承されてきた。アステカ文明では千五百二十一年にコルテスに征服されるまで、インカ文明では千五百三十二年にピサロに征服されるまで八尋殿とヒヒロカネの時代が続いていた。

南米大陸ではつい五百年ほど前まで八尋殿とヒヒロカネの時代が続いていた。日本では縄文時代の終焉とともに歴史の表舞台から姿を消す。しかしその系譜は、今でも続いて

いる。鞍馬山の天狗と修行した牛若丸や武蔵坊弁慶や金売り吉次などだ。これらの系譜は縄文を支えた文明の名残だ。

縄文人が自由に平和で平等に生きられたのは、あらゆるすべてと連動し、必要な情報やエネルギーを場から取り出せたからだ。決済の仕方も当然あらゆるすべてを前提としていた。物物交換だったが、その流通はあらゆるすべてと連動し天然の最適化のために行われた。取引する時は必ず天然を鑑み天然が増大する取引であり減少する取引はしない。彼らの遺跡を調べると石器の材料となる石の産地は決まっているし、その縄文土器の文様もその地域や時代で決まっている。文様の移り変わりからグループの変化が分かる。

場と連動していた縄文時代は、天然の領域にある本来あるべき姿の文明を模索していた時代であった。当然、権利も、天然つまり森羅万象の保証する権利が重要視され光明思想や律法や法律や教義の保証する権利は重要視されない。当然自由に生きる。何をしても良い。それは哲理、真理との一体化で在る。それがそのための道具である八尋殿とヒヒイロカネの造営である。造営しては好き勝手に勝手気まましたら造営していた。それが人生であり、その真理を犯す者はいなかった。

人人は平和なこの暮らしがいつまでも健やかたることを願っていた。八尋殿とヒヒイロカネの生活が発展することが理想だった。あらゆるすべてとの連動は人生を最適化し人人を幸福にする。天然にある原型を発掘する人生が理想だ。当然、縄文時代一万年の歴史は天然をより完全な天然に完成させる方向に進む。それは環境汚染もなく公害もなく豊かで平和で自由で平等な世の中であつた。

縄文時代、科学や宗教や哲学は天然自然の在るべき姿の理想を追求していた。縄文時代

では科学宗教哲学、政治軍事経済は森羅万象にある本来の機能と形態をしていた。だが、縄文時代の終焉とともに、平和をさえたあらゆるすべての連動を成しえた八尋殿とヒヒイロカネの造営は終焉する。以後、古墳や青銅器、神道と神社、仏教と仏閣、十七条の憲法や武家諸法度など天然を文明に置き換えるようになる。それは階層構造の発生だ。宗教や科学の本質が建前に置き換えられていった。

国祖が律法を制定する前までは八王八頭と神宝は八尋殿とヒヒイロカネの本来の機能を果たしていたが、それが国祖の専売特許に変質していく。階層構造の道具にされたのだ。八尋殿とヒヒイロカネのあらゆるすべてを鑑み、本来在るべき姿を模索することがなくなる。そして階層構造は二段階の展開をしていく。

初めに国祖が嚴罰主義を取る。合法が増えれば違法も増える。すると必ず何かで違反してしまう。その結果必ず罰せられる。地球は国祖の刑務所と化し民衆は国祖に反発し不満が頂点に達し爆発して国祖が御隠退となる第一段階。国祖御隠退以後、常世彦と大国彦が派閥を形成し争う。常世彦派の規格と大国彦派の規格が互いに雌雄を決する。そしてあの洪水が起こる。規格が適合と不適合を生み出し適合が勝組、不適合が負組を生み出し、運否の差がはつきりしてくる。それが下克上を生み出し争いが多発し纏て全面対決に発展していく第二段階。

これは国祖の政策が乱世を起こす。国祖は二段階で破滅する階層構造の問題に気が付かない。それが三十五万年も地球で続く。それが大洪水や大戦争の原因なのだ。縄文時代の終焉とともにあの暗黒時代の魔性がより精鋭化してぶり返す。大罪を計量し、贖罪の火の玉で清めても無駄よ。原型を破壊された八尋殿とヒヒイロカネはもはやあらゆるすべての

道具ではない。正真正銘の八尋殿とヒヒロカネのないただの八王八頭と神宝だ。

### 三五教の内部の問題

三五教が民のためを叫ぶほど世は常闇に落ちて行く。三五教は本当に地球を救済する気があるか疑わしい。大成奉還は階層構造と対症療法であり、格差社会を生み出すだけだ。少数の勝組の頂点に君臨する別室が俺たちは勝者の栄光を掴んだ。かく成る上は命にかえても、犠牲と成った多数の敗者のために理想社会をなそうと部長は思う。そこで支配者たちは別室を自らの良心と崇め貴ぶのだ。

実に馬鹿馬鹿しい。管理社会は天然自然を人工人造に作り変えた。管理社会が、自然であれば自然は攻撃しない。本来、自然は自然の作った道を歩むのだが、巧妙に自然を騙す三五教のために、自然は迷い停止してしまう。あちこちで循環が停止して、壊死が起こりかけている。腐れた所から病んで、やがて死にいたるのだ。日本の別室はその危機を自覚しているのか。いいや、していない。アメリカやロシアも自覚しているようには見えない。ということ、型の仕組みからして、していない。何の危機感もあるようには見えない。しかし、なんら対処していない。対処するどころかますます腐らしている。型の仕組みから考えれば日本が世界支配の野望を実行するからアメリカやロシアが世界を支配しようとするのだ。地球を壊死させようとしているのは三五教だ。なんとか成るさ、ぐらいにか思っていない。それは今まで負債を肩代わりしてくれた魂がいたからだ、その良識ある人人をあざ笑い酷使して暴利を貪り、死ねばみな終わりというのが闊歩する今、かつて

のように負債の取立てを引き伸ばすのは難しくなりつつある。

仮に大戦が起こり贖罪の火の玉が落ちてきて偉大なる浄化の日が訪れても、その世でアメリカやロシアの常世彦や大国彦の末裔がここを指摘したらなんと答える。我我は日本の型を実行したに過ぎない。諸悪の根源は戦争の型を出した日本ではないかというだろう。日本が平和の型を出せるかどうかは、日本の三権の長を見れば分かる。三権の長に場力と星の真実が分かるかどうかだ。三権の長に型の仕組みや旗の仕組みが分かるかだ。別室や調査室は知りぬいているからな。だが三権の長は知らないだろうな。分かっているなら官庁やマスコミに指示しそうなものだ。それさえないし、アメリカやロシアも宇宙の真相を公にしないところをみると三権の長に情報は届いていない。

いったい三権の長や別室や調査室はどんなに民のため国のためと、どんなにがんばっても無駄だと気が付かないのだろうか。対症療法で生き物を傷つけて何が医療だ。医療とは力が、場と誤差が無いように癒すことだ。時空間免疫システムを騙すことではない。

氣位ばかり高くことなかれ主義の小心者の用心深い官僚主義の平穩で敬われることばかり祈る獅子身中の虫にとつて欲心を脅かす道彦が邪魔だ。富国強兵政策を取る東条秀樹や近衛文麿にとつて、出口王仁三郎の平和外交政策が邪魔だ。ねじ曲がった欲心で動くものにとつて、発心ぐらい曲がって見えるものはない。獅子身中の虫にとつて、時空間免疫システムぐらい嫌いなものはない。

道彦は国祖宛に密書を送っていた。それを国祖に差し出さなかったのは獅子身中の虫の独断専攻である。それをなぜ、道彦の独断であると言われるのか。そこに三五教の欠点がある。組織では部下は上司に自分が不利に成る報告はしたがらない。富国強兵政策をとる

東条たちにとつて平和外交を展開する王仁を皇室や別室に近づけない。王仁を不当に評価する。獅子身中の虫が道彦からの密書を報告しない理由は責任逃れである。

獅子身中の虫は報告を握り潰す。だから国祖は鬼武彦の恐れながらという話を勘違いした。鬼武彦は報告を受け取ったものと思つていた。だが、国祖は知らない。このことは、組織自体が組織の欠点をカバー出来ないという欠点だ。道彦を押し込めたから国祖は押し込められた。現場に顔を出さない管理者は必ず誤つた判断をくだす。獅子身中の虫の不正を見抜けないからだ。

なぜ、道彦を罰し獅子身中の虫を罰しない。獅子身中の虫の過失はどうなる。それが、昭和天皇の戦争責任の本質だ。富国強兵を掲げる東条たちが蔓延るのに平和外交の王仁がなぜ責任を問われる。確かに別室には国体守護を掲げ、お国のために外国と戦う軍は便利かもしれない。だが軍のような組織の権化は獅子身中の虫そのものだ。ついに国を滅ぼしたではないか。神風は愛の発動にして、憎しみの光ではない。

型の仕組みから日本が富国強兵のごとき階層構造で自然を転ばせば、日本が諸国に転ばされるのは当たり前だ。平和外交なら外国に占領されても愛の発動があり、神風が吹いたろう。そして奇跡が起こり日本が勝利する。森羅万象を動かすほどの大愛が、東条たちの富国強兵政策にありや。無いではないか。なかったから神風が吹かなかったのだ。

王仁の博愛平和政策ならば神国足りえる大愛があつたろうから、立派な神風が吹いたろう。道彦が報告したのに、気が付かなかつたから大成奉還と認めないと、報告しなかつたから大成奉還と認めないではまつたく違う。

獅子身中の虫や東条英機や近衛文麿の行動を、つぶさに見てみると、浮かび上がる組織

の欠陥。国祖も昭和天皇も、道彦や王仁の真意を、待ち望んでいたし、道彦や王仁も国祖や昭和天皇に、本音を伝えたかった。だが立ちはだかる組織の持つ欠陥。真意が伝わらないのも、不当に評価されるのも、不正が防げないのも、国祖の政策の欠点である。組織も階層構造も対症療法も、この欠点ゆえに成り立たない。





兇党界の最終陰謀

## 政策の矛盾

国祖の政策はトップを決めトップが組織を統治する。トップが決めた戒律に違反した者は神の名のもとに罰せられる。この階層構造で戒律の違反者を罰したが民衆の間では不満が燦る。締め付けて民衆は喜ばない。国祖は民衆に支持される政策が出来なかつた。やがて燦る不満が戦火の炎になつて地球では戦乱が起こる。戦火を鎮火したいなら燦る火種を撒き散らさないことだ。火種を撒けば必ず大火が起こる。

やがて国祖は国祖を頂点とする絶対神聖政權の樹立の預言を残し、階層構造の型を残して失脚する。その後のリーダーたちは国祖の残した階層構造を世襲する。そして地球には不平不満の火種が燦り続ける。火種は世に満ち、大戦乱の火柱が起きる寸前だ。国祖以来

なんで、騙されたことに気づいても修正もしない。過失があるのに謝罪もしない。スイッチがオンなら明かりがつく、オフなら消える。スイッチオンオフ明かりがつく消えるつて何だ。電球つく消えるつてなんだ。わからんだろう。ついてること自体消えてない、消えてること自体ついてない。つく消えるつてそりやどんな状態だ。

階層構造の摩擦的眞理的場力共鳴の原理の樹立。それは何だ。場と自由に連動するし、何をしてもいいはずだ。トップが支配して戒律の違反者を罰する。部長だけが場と連動を許される、場と連動するのは部長のみ。これでは両立出来ない。

本来は、そこいらじゅうが、なんでもどこでも場と勝手に連動する、アクセスポイントだらけ。摩擦と共鳴は全く別だ。場と連動するのはあらゆるすべてであり。無限でなければ場力共鳴でない。無限が共鳴だ。制限が在つたら場力共鳴でない。無限にアクセスポイ

ントがあるのだ。たら摩擦は存在しないはずだ。アクセスポイントとは別室部長だけとする三五教の理想は観念上は存在しても実在しない。ないものは出てこない。

場と連動するなら別室だけがという教義を撤回する。別室だけが、ではない。すべては森羅万象の元の平等。別室は神聖統治権を継承してはいなかったと声明を発する。別室に大成奉還することにより大損害を受けたのだから、別室が謝罪し援助する。だが果たして大損してまで大成奉還が必要か。いいや、要らないはずだ。

森羅万象が傷ついても別室を守ってくれたから、こんどは別室が場を守りましうにはならんか。場到大成奉還の必要はない。何故なら、そこいらじゅう場だから。民が場を捨ててまでする必要は在るまい。別室はなにやっても大成奉還と認めればいいだろう。部長が認めればこつちも得するし、あんたも得する。あんたが、くだらん大義を振りかざすから、皆、傷つく。やめて、こつちくりやいいんだ。どうして捨てにやならん。認め合つてこそ浮かばれるせも在れ。

じゃー、認めるのか。そこで善因善果が出てこない。命題が真なら対偶も真してよ。どうしても、地団駄で、答えない。この悪が兇党界にとつて必須、渡りに船だからだ。

今まで兇党界は界の領域で鉄壁の布陣を引いた。界の領域を腐敗させ、更に場の領域を腐敗させようとする。いよいよ兇党場を開発せんとする。どんな必殺パンチも当たらねば効果はない。兇党界は今まで、場とアクセスしない。そこで国祖を誑かす。これで地球を足掛かりに兇党場が出来ると企む。だが場に見ればここで型の仕組みで部長の正直が  
出れば兇党界を一気に高天原に繰り込めるかもしれない。そこで高天原は注目していた。

畏の金神は常に場に神経を尖らし気を使つて来た。場は見ているから大神が全く知らな

い良の金神の活動の真実や、妖幻坊の陰謀の詳細を知っている。一見すると不可解な良の金神の言動にも場は心当たりが在るのだ。場を見ながら良の金神はやはりそうかと納得するが、別室部長はほれ見る良の金神め、我が在るしておる、と悪くどる。

さらに獅子身中の虫は大嘘吐くが、良の金神は場の導きで切り抜ける。またしても良の金神め罨をかわしたなとさらに凶党界は陰謀を巡らす。その繰り返し。そしていよいよ時が満ち最終直接行動を起こした凶党界。

だが場も介入して来た。因縁の身魂に。場は地球人の触覚や記憶に介入して来た。情報やエネルギーを供給してくれた。そこでいろいろ教えてもらう。ガタガタになったが、何度も何度も助けてくれた。その癒しのテクを公開するように言っているようだ。それと真相を公開せよと。

## 損害のもと

場と連動する力線が貫くのは別室だけであり、他が貫いたら不敬罪、天則違反と断罪する国祖。三五教が救えるのは三五教の部分だけ。他の部分は破滅。なぜなら三五教の部分は大成奉還だが、大成奉還の基準に適合できないひとのほうが多い。基準で全体のここまですとしたらそれに達しないと不合格。そのため多くの民草が破滅した。

力線が誰でも貫くようにしないと全体が回らない。国常立命も素盞鳴命も月では統べる

と共鳴に固執するが地球では滑ると摩擦に固執する。三五教は凶党界の陰謀に加担してきた。だから修正してよ。物理的に障害が邪魔して、

うまくいかん。破壊された機能では何も出来ない。殆どの機能が停止した状態で何が出来る。何も出来ない。妖幻坊の破壊工作の結果、地球も人類も大きなダメージを受けた。あつちこつちで損傷し傷ついている。それは善因悪果、悪因善果のためだ。認めないと言ひ張つている。騙されたんだらう。だったら認めてよ。不正があつたんだたら無効だ。無効だと認めてよ。正しい承認してよ。

だから階層構造という大義で見るから、道彦は大成奉還をしなかつたと見る。ここで、大成奉還が出れば、それは万劫言無き階層構造をしたということになる。それは、踏み絵じや。階層構造はいやというになぜ、踏み絵を強制するか。異端裁判、暗黒裁判、ではないか。何が改心じや。場の音階に合わせると、そう言つたのに、別室の決めた音階に自らの意志で合わせよ。それが改心という。だが個人と場は違う。部長を選ぶか場を選ぶか、宗教裁判。これを常闇の世と申すぞよ。

おもしろい思いをする奴ほど少なく、つまらない思いをする奴ほど多い世の中を作つた国祖がどんなに頑張つても絶対に世は治まりません、不平不満が燦る世の中では治まりがつきません。

部長に気づいてほしかつたことは、民が望んでいたのは力線が誰でも貫く世。別室だけを力線が貫く世ではない。別室だけが、特別ではない。別室が力線を管理運営する。部長の許可内でなければ、自由行動は天則違反。部長は一人だから一本だけ、そこで他は認めない。だが天然に力線は無限にあつた。民は無限と連動する自由行動だつたのか。自分の力線に従わせる。それは天則違反であつた。知らぬこととは言え民に迷惑をかけた。なんと浅はかだつたと気づいてほしかつた。

道彦の密書を見れば、国常立命が常世会議に参加をするために必要な条件が整ったはずだ。国常立命、塩長彦、大国彦、常世彦が万座の神の皆の前で一堂に会す四巨頭会談を催すことである。国常立命は、悠長にアザムを説いたはずだ。奥義を押さえられた手前、大国彦も常世彦も反論できない。

最初に塩長彦が国常立命に帰順する。塩長彦は当然、常世彦に帰順を促す。自ら祭る神が帰順したから常世彦も不意ながら形式上であつても帰順せざるおえない。大国彦は、当然認めたがらないが道彦以下の諸神が活躍し国常立命が自ら礼節を尽くし帰順せざるおえない羽目になる。

それが伝わらなかつたのが損害のもとだ。原罪だ。本来、道彦の密書のニアンスの詳細が国祖に伝わつていれば、国祖は独断専行と思わなかつたらう。王仁の評価や昭和天皇の戦争責任問題の根源が、ここにある。昭和天皇は王仁を知れば歴史は変わったらう。それは国常立命が道彦の本意を知らなかつたことの再来だ。

今から二千年前、ジーザスが希伯来人に言つたことは、あんた、そんなことしてると今に彼方と同じ志しの方がたと一緒に滅んでしまひますよと言つて、金権教や、へ無頼の輩や、我が在る同士で、滅んでしまふでしようと言つたのだ。それが黙示録の奥義だ。

国祖に道彦がいつたことはそれと同じで、組織を作れば組織に食い殺される。やめたほうが、いいはずだ。しかし、国祖はそこに気が付かない。だから国祖は組織に食い殺されたのだ。いま、戒律は地球の人類を食い潰し自然さえも食い潰そうとしている。

組織的に階層構造的に出来てはいるが組織や階層構造それ自体は実在しない。実在しない社会制度の歯車として生きて行くことは実在する固有を破壊する。規格自体は概念であ

観念である規格に合わせることは負担を強いて不満が募る。上からの命令でいやいやしても不満だ。固有なものを排除する規格に合わせる。それが国祖の政策が残したものだ。国祖なき後も、政策は残り、不満が燦る。国祖が治めないから争うのではない。誰も治められない。これは三十五万年前の話だが、それは今も、繰り返される。

## 存在の公案

地球の富というものは固有の形態以上にも以下にもならない。規格化によつて富は失われる。本来在るべき姿は自ら天然に由来する、それは場と力の連動であり力が場と共鳴して発電充電していることだ。それが富みの増大であり自然の大本だ。天然は共鳴共有によつて充電発電された情報やエネルギーを蓄積しそれが富だ。だが階層構造は蓄積された富を消費する。原型に合致しないと共有共鳴は起こらない。

階層構造で規格に合わせるためや、上から命令で、原型が三角を無理に四角にすれば、三角は共有共鳴が起きなくなり、折角蓄積した富を消費したうえ、無理に規格に合わせるしかない。叩かれたり擦れたり摩滅して行く。不本意ながら妥協する。譲らず通すか。何れにしろ無理を強いられれば不平不満がたまる。

大神に彼方は自分たちが幽冥界に思うか、それとも月面に住んでいると思うかと聞くと自分たちは月面に住んでいると答える。月に住んでると思つているのに地球の取り次ぎには幽冥界から来ましたという。別室は、幽冥界は無い、大神は月に住んでる。それを知りつつ公開しない。一から十まで場の知つていることと一致して、思い当たる節が



ないと、場にも分らない。こちらで理屈をこねても場に分からねば場も空振り。界は場の通りでない情報やエネルギーの共有はない。

だからどういうふうに善因悪果、悪因善果しようとも、善因善果、悪因悪果になるように、良の金神はしただけだ。あの世とこの世の関係は星から星へ。隠世と顕世の関係は場と力のはずだ。ここに命題が「真」なら対偶が「偽」で、命題が「偽」なら対偶が「真」という論理で、観念を実現するという。観念は実在しない。だから実在しないを対偶で実在しないにしなければならない。善因善果、悪因善果、悪因悪果は不完全未完成だという。

善因悪果で悪因善果の理論なら実在しないの対偶が実在するになる。それなら、実在しない観念の対偶が実在する観念である。そこで心霊は観念であるから、観念が対偶で実現するなら、心霊が実現するはずだ。そこで実在しない観念の心霊が対偶で実現する観念の心霊になる。

因果とは、物質因は物質果、心霊因は心霊果であるから、さらに嘘から出た誠の対偶を使う。物質因は心霊果で心霊因は物質果になって、心霊と物質の融合が成りえるという。幽冥界の神の霊を受けると別室はいう。善因善果、悪因悪果では不完全な場だ。完全な場こそ幽冥界だという。大神に嘘吐かせて出た、嘘から出た誠であればこそ尊い真理真実と言い切る。地球人の身魂を乗っ取り触覚や記憶を改竄する。だが何にも出てこない。

悪因善果善因悪果のスイッチをいれるたびに天然成分を消費する。減ってるだろう。だが誰もそれが危険だと気が付かない。矛盾の危険を教えない。教えれば皆、滑ると摩擦をやめて統べると共鳴に乗り換える。誰も別室を振り向かなくなるからだ。それを別室が最も恐れるからだ。そう、初めつから変。三五教、怪。理想社会を掲げ、自ら月人を自覚し



ながら、幽冥界から来ましたと取り次ぎにいう。

異星人が自ら掲げる場力と星から星への真相は月を始めどの星でも当たり前、何故、地球では観念上にしか存在しない神靈界つまり、幽冥界が幅をきかすのか。神靈界つまり幽冥界は観念上にしか存在しない。物質界も観念上にしか存在しない。明かりがついてゐるが神靈、消えてゐるが物質なら、科学は消えてゐるということ、ついているは科学ではない。科学者は消えてゐるということしか蘊蓄しない。精神と相互作用しない科学に、相互作用するという宗教は合いまみれない。

明かりはついても消えてゐるも両方ともある。ついていると消えてゐるは正反對だが明かりであることには変わりがない。だが明かりがついてると消えてゐるは両立しない。明かりがつくと消えるは正反對だが明かりであることには変わりはないように精神と相互作用をするしないは正反對だが、相互作用自体には違いはない。

明かりがついているだけや消えてゐるだけでは壊れた明かりだ。心靈が正しいとか物質が正しいとかいうのは、実在を壊している。便宜上の方便だ。あの世とこの世も、隠世と顕世も、実在しない幽冥界ではないし、実在する有限ではない。

三五教の名物、善因悪因善果は、悪因が善果になつたというが、その善果は善因を押して手に入れた善果を略奪したものだ。悪果はどこに消えたのか。善因善果をバラバラにして善果を略奪した。善因を押したのに善果を奪われ、悪因を押した人の悪果のつけを支払う。嘘から出た誠で正直者の善因から善果を愚者を略奪し、愚者の悪因の悪果の処理を正直者に押し付ける。三五教の名物は正直者が馬鹿を見るのだ。

因果律をバラバラにすると悪因を押す奴が甘い汁を吸い、額に汗して働いた善因を押す

人が大損する。善因善果が一番良い。悪因を押して悪果のつけを支払うのは善因を押した人だ。それを今は苦しくとも必ずよくなる。叩かれ焼かれた刀を見よ、贖罪の火の玉で洗ひ清めればピカピカというが結局、悪因を善果にすることは出来なかつた。善因の善果を略奪しただけ。物質神靈等価原理、絶対成立しない。絶対に不一致だ、一致しない。因果は場力であり、場力の通りが因果である。場の原型が因であり、結果の力が果である。善因悪果で悪因善果は、結局、善因善果、悪因悪果にかえる。場で善因が善果、場で悪因が悪果、場を騙すことは出来ません。結局、場で悪因を押せば善果は出ない。善因の善果を奪つても場は騙せない、滅び綻び転びだ。純粹に善意で大神は改竄した。本当にあらゆるすべてが善に変えるなら何をしても良い。すべて善にかえる。それでこそ真の自由行動である。大神はそれは素晴らしいと、考えたのだ。嘘から出た誠が本物なら「偽」を「真」にしてこそ本物の対偶なら、純粹な悪こそ純粹な善。誠にならないならまだ嘘が足らない。大成奉還は高く険しい。未だに極められないと考えたので、嘘をつくことが誠になった。

### 年貢の納め時

三五教の大成奉還なら、必ず上手くいく。うまく行かないなら大成奉還でない。自分の大成奉還はまだまだということになる。つまり、場を騙せばいいということだ。それが、兇党場、国祖は妖幻坊にとつて理想の身魂。春日姫に横恋慕する妖幻坊にとつて、春日姫が恋い焦がれる道彦を滅する掛替えない身魂。

だが兇党界が直接場に接触したためにすべてを見ていた場はそれ相応の扱いをした。それは因果である。場は因を、押した者に果を帰すという当たり前のことをした。妖幻坊や国祖がグチャグチャにしてしまった場力の因果を元通りにした。つまり善因善果悪因悪果にした。森羅万象は道彦の場の原型の通りにするやりかた。因果を繰り返しても場の因果を考える。力の因果を場の因果と一致させることに合点がいった。

場が道彦を見ていると、あれよあれよというまに力を場の因果の通りにする。場が用意する因果を見つけ出し、場の因果の通りに力をする。それは触覚や記憶が場と共鳴共有しているからだ。人間の触覚や記憶は場にとつて実によくできている。人によつて森羅万象は十人十色。皆違う。

これは勘だ、証拠もない。だが物理法則が不変なら場があるなら、場と力の共鳴共有は誰にでもできる。因果をぶつ壊した国祖と妖幻坊。だがぶつ壊したと同時に場が積み上げてきた因果が修復を開始した。場の因果は界の因果が矛盾すると最適化を開始する。場で因果が確定すれば、界が試行錯誤を繰り返しても誤つても必ず介入仕直してしまう。力で因果を確定出来ない因果律は場だ。

場は界を最適化する。界で矛盾でしかない兇党界は、一瞬で存在原理を打ち砕かれた。基盤を失った兇党界は徐徐に衰退していくだろう。兇党界は毒で何でもかんでも腐敗させたが解毒剤にはかなわない。何れ、兇党界は最適化され毒は解毒される。

三五教大神は月人だ。月人に三五教の教えを広めようとすれば月人の大神でさえ反対する。自分でさえ反対する自分が運営する宗教。なぜ、そんなもんを地球に広める。布教されたらその宗教の元締め自身でさえ迷惑な宗教。大神はかつたるそうに大神をしてる。誰

も大神おおかみしてくれとは頼たのんでないから別室べつしつに真相しんそうを公開こうかいするように言いつてくれ。  
靈界れいかい物語ものがたりが宇宙うちゅう物語ものがたりになった時とき、大神おおかみが真相しんそうを語かたる時とき、歴史れきしが始はじまる。地球ちきゅうはくだらな  
い星ほしではない。宇宙うちゅうで屈指くつしの実力じつりきがある。今までそれは諸処しよしょの事情じじようにより地球人ちきゅうじんは自覚じかくし  
てこなかった。戦争せんそう貧困ひんこんなどが溢あふれている。しかしそれもうじき終おわる。兇党界きやうとうかいの終焉しゆうえん  
が近いからだ。今いま、妖幻坊ようげんぼうは地球ちきゅうに封印ふういんされている。それは地球ちきゅうを兇党場きやうとうばにしようとした  
ため地球ちきゅうと癒着ゆちゃくしているからだ。今まで妖幻坊ようげんぼうに取り込まれた星ほしは必ず滅ほろぼされた。地球ちきゅう  
もそうなりかけた。

しかし、地球ちきゅうは場ばの研究けんきゆうでは宇宙うちゅうで最も進歩しんぽした。宇宙うちゅうネットワークでは界かいの話はな、つま  
り、星ほしから星ほしへの研究けんきゆうが進すすんでいたが、場ばの研究けんきゆうはあまり進すすんでいない。地球ちきゅうでは宇宙うちゅうの  
真相しんそうが広ひろまらなかつた、物質界ぶつしつかい神靈界しんれいかいの考かんがえが広ひろまつた。試行錯誤しこうさくごの末すえ、因果いんががグチャグ  
チャになったために場ばに頼たよらざる終おえない。

そこで結果けつが的に、場ばを手探てさぐりで探たんることになる。地球人ちきゅうじんは氣きが付つかないうちに宇宙うちゅう屈指くつし  
の英知えいちを築きずいた。宇宙うちゅうネットワークが感心かんしんする英知えいちと共に、宇宙文明うちゅうぶんめいが手子摺てこずつた鉄壁てつぺきの  
兇党界きやうとうかい対策たいさくと共に立派りつぱに宇宙文明うちゅうぶんめいに加盟かめい出来る。

伝説でんせつや神話しんわ、古代語こだいごに、場力ばかきりよく共鳴きやうめいなんて語ごはありません。古史こし古伝こでんに量子呼吸りやうしこききゆうなんて語ご  
はありません。国祖こくそが因果律いんがりつをバラバラにする前まえまではもひとつだった。そのころは  
それが当たり前あてまえで、余あまりに当たり前あてまえすぎてもそれを現あらわす必要ひつようがあつて、場力共鳴ばかきやうめいと言いっている。学校がっこう

その前提ぜんていが崩くずれた今いま、その当たり前あてまえを現あらわす必要ひつようがあつて、場力共鳴ばかきやうめいと言いっている。学校がっこう  
は文部科学省もんぶがくしやうがこう回まわれと言いつたら生徒せいとをそう回まわすしかない。確たしかに先生せんせいが物申ものもうすことは  
あつても生徒せいとを文部科学省もんぶがくしやうのご意向ごいこうの通とおりに回まわすことをやめられない。それは組織そしだから

だ。生徒に場と連動するということを教えない。

私は文字が読めるようにすることをとかくいいません。読み書き算盤大いに結構だが義務教育は人間の場と力の共有共鳴を破壊した。確かに識字率をあげる。それ自体は素晴らしい。だが知識も教育も団体の団が支配し、組織の歯車として訓練され、学校家庭企業で共有共鳴を破壊され、それが当たり前と成った名もなき無数の人人は至るところで天然の共有共鳴を消費、今、在庫は底を突いた。

義務教育が本格化してから共鳴共有の破壊が一気に大規模化深刻化した。家庭も子の宝を破壊しその危険性を省みない、企業も天然の富みを売り上げに換える。誰も天然の富を略奪する危険性を必要悪と黙認する。かつて、人人は天然の富の増大を文明文化の基礎としていた。巨石建造物や巨木建造物やドロボーやトロボーを作って天然が喜ぶのを楽しみにしていた。その時代、場と力の共有共鳴をもたらず利器が作られた。その遺跡こそ自然そのものだ。

だって、縄文人、皆、使つてるよ。古代人の遺跡を、見れば分かるよ。返事つて答えるだよ。古代人はストーンに返事させることが出来た。ストーン ヘッジ、ストーン返事、石が答えるだろう。縄文人は人工衛星やロケットが無くても今のGPSやインターネットみたいなもんを、持つていた。古代人は天然自然を活用して今のコンピュータとして使っていた。天然の動力を組み合わせ立派に文明文化を築いていた。

学校を支える政府の建前は物質の科学である。物質の科学は自然に人間を越える英知があるとは考えない。文部科学省は組織であり、学校はその組織の歯車。先生は生徒を組織の歯車として回す。学校は文部科学省には逆らえない。それに適合出来れば教育だが出来

なければ子供はそこで踏み絵を強制される。強制収容所に収容されて洗脳されて強制労働に従事されていることになる。

政府や学校では科学で物質は常識である。一般常識なんだけれど階層構造という原理はその本質において論理的整合性が取れなくなってくる。論理的整合性を取るために嘘から出た誠になるが、誠は出てこない。さらなる嘘で固める。やがて滅する。兇党界は因果律がグチャグチャで正常にすれば跡形もなくなることが分かった。なら簡単だ。元に戻せばいい。

知ったのだから

大神はそれを知っているはずだ。それを言った大神が馬鹿野郎だ。ついに墓穴を掘ったでは無いか。誰が権力組織機構など、作れというた。いうたんは大神や。馬鹿たれが。おかげでこちらは大迷惑。後始末に終われ地球の民は青春どころではなかったわ。地球の民が言っただんじやねー、大神が言っただ。だからあれほど警告したのに。三五教の奥義の大成奉還だつて。科学的真理的宗教的原理の樹立だつて。地球の民は出来ませんつて言っただ。

三五教が三五教の名のもとにしてんのかと思うたから黙認して来た。そんなの認めんから三五教の名のもとに勝手にやんな。再三警告したんだ。ご自由にどうぞ。わしや、知らん。あれだけいうたのに。その違いも未だに分らんか。

水と空気と安全はただと言っておったところに成長した、今は立派な大人は、今の若い者

は何するか分からんというだろう。それは当たり前だ。こんだけアマとサヌキとカムを、放蕩したままで、若い世代はどうすんの。苦しんで摩滅して行くだけの世の中。おもしろくねー。今の若い連中のカムとアマとサヌキは崩壊寸前や。

そのころはまだ備蓄が在った。今は天然からの供給でなんとかもっている。もはや底をつくのは時間の問題。いいかよく聞け。おもしろいとかいうのは本来、場と力だ。命あるすべてのものに降り注ぐ愛の喜びなんだが、テレビでやつてるドラマの愛、えらく曲がってるだろう。生の歓喜。それって、場と力の共鳴だよ。

だが、理念で命を賛美してもテレビから飛び込んでくる戦場の惨状の前では道徳もシラケ、説得力も無い。理想だけでは基本的に言って無理だと思えます。犯罪を誘発する因子を撒き散らして置いて防犯をしてもねー。ようは緊張したアマとサヌキとカムを和ませること。これに尽きる。

本当の話であるはずの宇宙物語とは言わない。私が言ったのは場力共鳴で、階層構造では無い。三五教は幽冥界を語る。世のお父様にお母様はがんばってますよ。ところがしてゐることは、天然に前借りしては踏み倒してる。科学が天然に知性が無いと言い、宗教が幽冥界を説く。三五教の元締め日本国内閣調査室別室は決して真相を語らない。

最初、一厘の仕組みって表田が世に出ることかと思つた。だがよくよく聞いてみると違う、全く通じていなかった、なんじやー、これはと思つた。一体、誰が世界最終戦争などせいゆうた。ゆうたのは、だれや。わてらじやねー。ゆうた人は、嘔吐きではないか。だれもいうとらん。じやー、何故戦乱が止まぬ。妖幻坊に騙されてゐるからだ。

皆さんにお尋ねしますが、全面熱核戦争など始めたら一体誰が責任とるんですか。こう



成つたのは国祖が自分の不義に気が付かなかつたからだ。国祖は自らの政策が持つ、矛盾に気が付かなかつた。あれだけしたのに道彦の警告を弁解と解釈してしまつた。

兇党界は国祖の嘘を使い国祖を騙した。嘘吐きは嘘から出た誠こそ其の誠と盛んに吹聴していた。確かにその通りだ。だが、天祥地瑞や縄文の地球人や道彦は元元、嘘をつけばそれが誠なんて言つた覚えは無い。だから、部長は言い逃れをしている。

地球人は天涯孤独、宇宙の孤児と成っている。正しい生活を送れない。宇宙の隣人を、信用できないで、どうしても、どうしても、どうしても、やつぱりムムムとなつてしまうのは、地球人のボコボコ人生、ポンコツメカ、辛い一生、荒んだ心のためだ。

大神は哀れむが大神の仲間が諸悪の根源とは気が付かなかつた。もうこう成つたら別室に真相を語つてもらうしか無い。しかし別室は自らの矛盾に落ちた。誰でもそうだが自らの過失は認めたくない。自分より下の地球人に自分は、別室だと開き直り、自分を上回る地球人に会うとすると、別室は、まてよ、まてよ、まてよ、ひよつとしたらと開き直る。

### 因果律の破壊

別室の連中、今頃になつて真相を知つて矛盾に陥つてゐる。三五教の矛盾は三五教の理想自身が三五教の理想自身を否定するということだ。命題が「真」なのに仮定が「偽」という。これは便利だ。何故なら悪因善果になるからだ。善因善果はそのままに悪因悪果はいい。悪因悪果を改良し善因悪果を改良し悪因善果と善因善果に出来ればよいのだという論法だ。



善因悪果は本当の善因ではない。本当の善因なら必ず善果に成るはずだ。成らないのは真の善果では無いことを証明している。善果に成らないのは善因で無いからでは善果に成ればよいのだ。善因なら必ず善果になるはずで、ならないのを、よそ様のせいにしてはいけないという論法だ。

普通は矛盾しないようにするものだ。矛盾を最適に出来てこそ本当の最適化だというのだ。そこで最適を取り上げ、途轍もない矛盾を持つて来さえすれば、空前の最適化になると思うか。誠なら嘘をついて、ついて、つきまくり、嘘で固めて更なる嘘で大きくし、誰にも見当がつかない大嘘で誠になると思うか。世の中よくなるなら嘘で結構という風潮になつてしまふ危険な主張だ。

善因善果、悪因悪果、それと同じで瓢箪から駒は、もともと場の領域で善因善果が確定してしまえば、後は界の領域でどうお茶らけても必ず善果になるということだ。場の領域で善因善果決済してしまえば、界の領域でどう悪ふざけても結果論として真善美愛になる。だまし討ちして善果を横取りすれば善因だということにはならないはずだ。

三五教の秘密とは、地球救済の大義の裏で行われた破壊活動である。それは騙された神と人の苦しみだ。考えが甘かった。まさかこんな大それた陰謀をめぐらしていようとは。ここに三五教の秘密が在る。妖幻坊は大神のご意向を鑑み徹底的に大神の好みに従つた。大神は朝な夕なに大神を崇拜する三五教が、凶党界の不正の柱になるとは思わなかったのだ。

三五教大神はそれが不幸の始まりだとも知らずに、万民の幸福を願ひ十二の八王八頭と神宝を配置した。それは本来在るべき姿の八尋殿とヒヒイロカネを破壊し、森羅万象のご

意向を妨げた。ここが実は靈界物語であつて実話宇宙物語ではないところだ。ここが実は八王八頭神宝物語であつて八尋殿ヒヒイロカネ物語ではないところだ。国祖の言つてるところとは変だ。成り立たない理想の実現なんて。民はそこを言つたのだ。まさか凶党界がそこを陰謀に使つていたとは三五教は思ひなかつた。

靈界物語を読んで思ひませんか。おかしいな。物質で出来ているならそもそも神靈はないはずだ。それは科学で考えるからだ。そこに靈界はない。ところが一寸前までは、神靈で考へてた。世の中の中身が変わつたわけでは在るまい。中身が変わらんに神靈だ、物質だという。そうだろう。政治で加持祈祷していたところと何が違う。同じでは無いか。まさか奈良平安平城のころは人類がアストラル体であつたという歴史学者はおるまい。

これからようやく、家庭では折檻を必要とせず、企業では売上を必要とせず、学校では偏差値を必要としない、和を以て尊しとなす世が出来ます。そう言つた系に移行しようとする。三五教の待つたがかかる。何故三五教はそこまでして自らの過ちを認め無い。そんなに大成奉還が大事か。地球が破滅しても我我は大成奉還を守り抜いたと自画自賛するつもりか。なら遠からず地球は三五教によつて滅ぼされる。

じゃー、別室に聞か、別室制度を月に持つていつて、月人があがると思ふか。神集岳でさえ嫌がる。宇宙人は皆、要らないと口を揃えていう。国常立命や素盞鳴命でさえ月で別室部長は要らないという。いたら皆反対するという。

じゃー、何故、地球人が反対する別室制度を確立しようとするか。欠点があまりに大きすぎて国祖は気が付かないからだ。別室部長の平常心が民を逆なでする。別室部長自身には別室制度の抱える問題を解決出来なかつた。そりやそうだ。物理法則的に不可能だから

だ。国祖以来別室部長は自分の役職の存在が天則に違反していると気が付かない、認めたくない。

出来ないなら出来るようにしてみせるというのが別室部長だ。何とかして証明しようとする。影に隠れ決して表に出ることの無い別室。三五教は別室だ。ほかに皇位継承者はいない。正当性は我に在り。それが分かるのが三五教だ。皇位継承権は別室だけ。ほかに無いという。だがここで、そこに天則が在るなら本来どこでも、皇位継承権が在るはずだ。もし三五教の言っていることを認めたら森羅万象のために働かないと認めたことになる。

型の仕組みから、別室が今いるとしたらなに考えているかを考えてみな。例えば米国の場合、米国系多国籍企業の利益は合衆国の利益。合衆国の利益は米国系多国籍企業の利益と、高官もそう言ってる。カントリーネバー。カンパニー。パトモス。ネバー。カントリー。それは影の政府、つまり、別室。政治の世界で起こることは水面下で別室を中心とした世界を作ろうという運動が火花を散らし、それが表に現れたに過ぎない。

階層構造を志向するのは悪人が多い。善人は間違ひなく場力共鳴を志向する。権力を欲する善人は殆どいない。名君が善政を敷いても必然として起こる熾烈な権力争いゆえに泣いて馬謖を切ることになり、権力を志向する悪人の手に権力は落ちて行く。国祖には自分の意向を引き継ぐ後継者が出なかった。権力を欲する善人は、まずいない。仮にいたとしても下克上で潰される。階層構造は悪人に有利なのだ。

よかれと思ひ階層構造を志向する善人だった国祖。しかし善人は場力共鳴を好むのだ。国祖は民衆が場力共鳴だと気が付かない。つまらない多くの民衆と特権に胡座をかく一部の支配階級。大神自らの政策が下克上を生み出した。大神は大いに後悔し懺悔する。そし

て反省し完全に全権を掌握する支配を確立した暁には善政を敷こうとする。物語ではそうなっている。

国祖に起きた恐ろしいことが国祖が周囲にしていること

そして不正のために、地球の地位も栄光も報酬も皆、持っていかれた。大体、援助つて云つたつて、何もしてくれない。常世会議の一件からそうだ。三五教は道彦が大成奉還したとか、道彦が大成奉還しなかつたからとか言い大成奉還すれば援助するという。道彦が大成奉還したとは認め無い。なら惜しみない援助を与えていないはず。

三五教は道彦に何故、大成奉還しないのかという。道彦は三五教に、だから大成奉還したとは認めんのかという、三五教は道彦に、だから、それを大成奉還とは言わないという。

何故、援助したというかいね。そう、ここに三五教名物、悪因善果がある。善因善果つてのが論理なわけ。三五教は理屈を越えている。だから悪因善果つてわけ。それつて理屈を越えているんじゃないよ。悪因を押して出て来た善果が誠の善果なら真の巨大戦争を起こして掴んだ平和こそ真の恒久平和ということになる。これは馬鹿げた間違いだ。

これは場力共鳴側に立つて来たものと階層構造側に立つて来たものの違いだ。手前らが栄耀栄華の仕放題してどうするの。折角、楽しみにしていたのに。お前らの放蕩で、俺の報酬はすつからかんだ。民衆の栄耀栄華は別室に召し上げられ民衆の栄光はまつ暗闇。お前のためだとお前らが贅沢したら俺が貧乏になるじゃないか。折角天然から頂いた御褒美

が台なしだ、というのが民衆や道彦の本音だ。

万類は場と自由に同調しているのが自然の姿だ。その証拠に天然では森羅万象から必要な情報やエネルギーを場と共鳴しあうことで得ている。当然万類である人類も場と共鳴しあうことにより情報やエネルギーを場と共有しあうことが出来る。ところが三五教の内部の邪な奴の邪心ゆえに、三五教の政策が素直のこのありのままを妨げているのだと、自覚を促すことにならなかった。

三五教大神や国常立命や素盞鳴命は純粹に善意で、天然の八尋殿とヒイロカネを人造の八王八頭と神宝に挿げ替えることが、誠の宗教の三五教の教義であり、一切を救済する三五教の役目と考えた。よかれと思う一途な純粹な善意ゆえにその先入観の色眼鏡で見ても、そこを突いた正直者の直言を逆手に取る悪意を秘めた部下の不義を見抜けなかった。

民衆にとって国常立命は迷惑な奴だ。常世彦が国常立命にしていることが国常立命が民にしていること。国常立命が常世彦を許さんように民衆も国常立命を許さない。

争いを以て勝負を決する原理をやめて、和を以て勝負を決する原理を樹立する道彦を、自由行動と断罪するが常世会議の時、国祖は密書を手にしていれば、自由行動を天則違反とする教義の過ちを認め、自由行動こそ天則の順守と教義を変更していたはずだ。民は、自分自身の場の鑄型に大成奉還する。すると別室は民が、別室に反乱しているとみなす。別室は民が場と同調出来ないようにする。すると民は路頭に迷う。そこで別室に近いものだけが残り。多くの民は兇党界にバリバリ食べられて朽果てて行く。

自分たち三五教大神でさえ嫌がる自由行動天則遵守を天則違反とするやりかた。自分た

ち大神でさえ嫌なら何故自ら神をなのる。ましてや自ら月に住んでいる人間なのに幽冥界の神を名乗る。壮大なペテンである。

## 場は見ていた

だが場は兇党界を見て、一撃で矛盾を最適化出来ることを確かめながら、それを見ていた。場は来るもの拒まず、去るもの追わず。場は兇党界のほうから接触してくるのを待っていた。我ほどのものは無いと驕り高ぶる兇党界。満を持した場に接触し、場はその一瞬で矛盾を解消した。

人類の起源が時空間の背後まで遡るように生命の最小単位や細胞の起源も時空間の背後まで遡る。ナチュラルキラー細胞や免疫システムの起源も時空間まで遡る。霊界物語では時空間病原体は妖幻坊や玄真坊や兇党界や曲言である。時空間ナチュラルキラー細胞は言霊や八尋殿やヒイロカネである。

人類が時空間を不潔にすると妖幻坊が暴れ出す。妖幻坊を押さえられるのは時空間免疫システムだけだ。だが三五教を異物と判断する言霊の機能を低下させたために兇党界が荒れ狂い二度も危篤に地球は陥った。三五教が施した手術のために傷つき痛んだ地球を見てもならん温情さえかけようとしなない。別室は組織を回す歯車に冷酷に冷静に徹して、決して表に出ない。

この天然自然を作り替える三五教の教義が人類を残忍な精神にする。研究機関で行われる森羅万象への残忍な仕打ち。これが別室のやり方である。そこを時空間病原体がついて



くる。自然が戦慄するような残忍な仕打ちをやめないなら地球の言霊が崩壊する。あらゆるすべてと一体化しなければ時空間の背後の自分に会えない。

国祖国常立命は自分の政策が妖幻坊の介入を招くとは気がついていない。別室が国権を構築すれば時空間病原体の苗床になるだけ。別室は政府を動かし政府は省庁に指示する。文部科学省が検定する受験勉強の教科書は三五教の教典である。別室は教科書が原理的に嘘であることを知っている。完全無欠は人間の存在する前から存在し、今もあり人間がいなくなっても存在する。人間が試行錯誤を繰り返して辿り着くのではない。その前にある。

それを妖幻坊が恐れるのだ。なぜなら、それが時空間病原体が恐れる時空間ナチュラルキラー細胞だからだ。つまり免疫システムは異物を攻撃するから、時空の背後に本体がないものを言霊が狙い撃ちするからだ。時空間の背後からの攻撃に妖幻坊は逃げ場がない。だがそれは三五教も同じだ。言霊の攻撃を受ける。そこで言霊の攻撃をかわすために機能を低下させる方法を受験勉強や経済戦争させる。当然受験戦士や企業戦士は曲言になる。有限が無限と交わる時、無限が有限に噴き出し有限が無限に吸い込まれる。完全を取入れ不完全を吐き出す関係が生じる。有限は完全なる完成を目指し無限を取入れる。そうすると有限は未来永劫成長し続ける。時空の誤差の修正は無限に続く。時空間免疫システムは時空間病原体を攻撃するだけでなく言霊として完成社会を構築する循環システムでもある。だが三五教には、この肝心の場力共鳴システムが無い。それが地球が完全完成しない理由だ。

妖幻坊は三五教が時空間免疫システムを崩壊させることに着目し、巧みに三五教の判断を誤らせ善意で部長が我慢すればするほど裏目に出る謀略を尽くす。妖幻坊は国祖の過ち

を巧みに使い地球を攻略する。悪魔とは時空間病原体である。

科学的手法を使っているのは、完全にたどり着けない。時空間が知性生命精神の根源だと認識しない。天祥地瑞や縄文時代、人類は宇宙を相手とし独立独歩してきた。だがそれは四八音の響きを濃縮還元して溶質を作り溶媒で希釈してほどよい溶液を作ることだ。四八音の響きは完全な無限から有益な成分を運び蓄積する。有限は常に無限より相対的に不完全未完成であり、無限は常に有限より相対的に完全であるから交流があれば、有限に完全成分が蓄積していく。

それは争いのない社会であり無限に理想社会の建設が続き大完全大完成を目指し進化していくことだ。ところが地球はその方向に進化しなかった。三五教の過失が時空間病原体の増殖を招いたからだ。経験を蓄積し学習する手法では未発見の未知に完全に対応できない。時空間免疫システムが異物を攻撃する特性は自分が完全でない証拠になる。場と一体なら時空間ナチュラルキラー細胞が攻撃しない。攻撃するのは自分でないからだ。

科学の殿堂や宗教団体の団は場と違っても団のほうを優先する。霊主体従から山河草木や縄文終焉以後の二千年前から地球ではアレルギー反応が激化した。時空間免疫システムは本来場力共鳴システムであり有限の誤差を修正する大事な働きがある。拒絶反応は自分でないというマターだ。自分が自分であることを認識するマターが時空間免疫システムである。

それがウラル教やバラモン教の奥義の言霊であるが、三五教はこのアザムの視点で元元ないままバラモン教やウラル教を見る。それが元で三五教は三五教自身を省みない。部長は省みるだが、いくら省みても自分は部長だと決断する。五情の戒律自体は省みるだが、



相手の立場で省みてこうしたほうがいいと思えども、自分の立場を優先する。それが無限との整合性を破綻させる。省みても自分より上の完全なる天理天則が目の前にあるのだということを省みて、冷静に受け止め認めるということをしない。

いずれそれでは限界がくる。地球に完全完成成分があるうちはいいが無くなった時、奪い合いが起きて、そして滅亡する。しかし完全完成成分は場の領域にある。地球には無限に在庫があるのに、有限の力の地球に届いていない、響いていないだけだ。完全完成成分は四八音の響きとして脳髓や腸にしみ出してくるはずなのだ。



今<sup>いま</sup>までの  
地球<sup>ちきゅう</sup>

## 言霊の歴史

今の日本人同士の会話はアとザに無いと夢の使い方がない。元元日本にもネバーを扱う言葉があった。隠身言霊だ。ところが実在する無限を見ることができないように仕組まれてから日本人は元元の隠身言霊を失う。縄文時代当たり前であつた、良く見やりみえるんだが、が無くなつていく。その結果、言霊が言う霊になつて幽霊に成つてしまった。言霊というのと、幽霊のお化け扱いだ。それは英語や漢語の言霊を幽霊というような受験英語や受験漢語を日本人は平然と使い世界中から響感を買う。

波布を蛇と答えるは正しい。しかしハブをヘビーと答えるのは言霊を幽霊と答えるのと同じ過ちだ。定冠詞のザや不定冠詞のア、希望に夢の字を使う受験英語受験漢語の間違いだ。受験日本語が曲言事霊である。三五教は隠身言霊を支配しようとした。そのままだは別室による支配を受け付けないから禁止して消去しその上で別室による支配可能な言霊にしようとした。そこで隠身言霊を分解する。その尖兵が文部科学省だ。

文部省は、戦前の内務省が解体された時に反隠身言霊派有志が結成したのが文部省だ。文部科学省は当然言霊を幽霊という人人の結社である。ところが文部科学省は言霊をアザムと言わない。パと萌すドロンプとへ無頼我が在るの違いをアとザの違いと説明しない。ナンとネバーの違いを知らない。元元言霊を潰して出来たものが集まつたのが文部科学省だ。当然、文部科学省には隠身言霊がアザムと聞こえない。英語や漢語を聞いてもアとザや無いと夢の違いが聞こえない。

すると今の日本語の受験日本語には隠身言霊がない。言語から隠身言霊を排除したのが

受験日本語だ。するとあるのは隠身言霊の例外、曲言事霊そのものである。日本の別室が自由行動を支配するためには場との連動を押さえる必要があるから、そのために別室が場と力の結節点に君臨し別室だけが場とリンクし他が場とリンクすることを禁止し、場とリンクする者を組織力で屈服させる。そのため日本では誰も場に近づくかない。場力共鳴に使う言葉は場力共鳴に使われず、そのため誤用される。それが言霊が幽霊に成った理由だ。言霊は表田の使い方を自由連想するのが自然だ。だが現在にはそれそのものが無い。あれば皆、自由に別室を越えてしまう。地球人はバキウムを遠巻きに見ているだけだ。場に近づき別室に睨まれるのを恐れている。別室は別室だけが宇宙の真相を独占し他に漏れないように情報操作で独裁する。三五教は宇宙の真相を知っているがそれを秘匿し隠蔽する。だからアメリカやロシアも真相を隠蔽する。

この矛盾を三五教は解消しない。宇宙文明に迫いつき追い越せといながら、三五教は宇宙文明の基本をことごとく否定する。この矛盾を解消できない。それが、文部科学省の教科書検定を生む。この矛盾を孕んだ教科書検定は日本人を破壊する。教科書の理念は、立派だ。だがどうすれば出来るかがない。三五教の大成奉還と同じで掛け声倒れ。

裁判で法律は違法でなければ何しても良い。従って自分が有利になるように不意打ちを食らわしても裁判で違法でなければ合法だ。株を買収する時など特にそうだ。それで裁判に成つても違法でなければ合法である。それは人間が決めた寸借法で割り出すから都合が悪ければ改正する。ところがまた抜け道を探して自分が有利になるように策を練る。

しかし誰もが納得するやり方をすることも可能だ。違法でない新しの皆が納得する判例を出すことも出来るはずだ。だが大抵、私利私欲で動くことが多く裁判も怪談ばかりだ。

その新手は場と誤差がないしかない。未発見の未知に完全に対応できるといふふうにしかならない。それが表田の使い方だ。善か悪かが見えれば良いのだ。実在する無限が見えるならどんなものでもここをこうするが正直だというのが一目で見て分かる。

隐身言霊がアザム明瞭ではオルガナイザーでカルテだ。曲言事霊がアザム不明瞭オカルトでカルトだ。宗教的なのというのをカルトというはアザムが不明瞭である。アザムではカルテが、ザ 宗教的なの、ア 不可解であり、カルトが、ザ 不可解で、ア 宗教的なのである。アザムが不可解な受験日本語漢語英語では、このような他国では絶対にあつては成らない誤用された語が溢れている。日本人は有害言語をばらまく厄介者だ。

とすると、ジャパン イングリッシュやジャパンチャイニーズを、教える文部科学省の受験日本語は、この表田のアザムの分類からするとジャパニーズではないジャパン ジャパニーズである。

ジャパニーズこそ隐身言霊である。ではジャパニーズとは何か。言語はこの言語でも日本語の訓読みに当たる一千語ぐらいの元になる語がある。その上に地層のように歴史が積み重なっていく。積み重ねを表田に分類するとき、そこで訓読みがものをいう。豊かに場と連動し明るく楽しく美しい生命に溢れた訓読みこそ分類の基礎に相応しい。そのほうが自由に連想でき汎用性がある。積み重なり過ぎて訓読みが対処できなくなつたときその言語は滅びる。

各国は訓読みの仮名の充実を目指し競い合う。その中で抜きだのが漢語と英語だ。これは霊界物語の因縁の通り三十五万年前に有無を越えた無の宗教として完成した無いと夢のウラル教と一万二千年前に逆裏対偶命題の科学として完成したアとザのバラモン教の

再来だ。中国が盤古を頂く漢語を完成したと、仏教の仏性もカミーズムも共にウラル教の光と陰である。ウラル教は盤古大神を神と祭る。大洪水以前はロシアも中国もウラル教で、大洪水以降のウラル教の残党が中国で、ロシアはバラモン教になる。

霊界物語では仏教もキリスト教も三五教である。キリスト教のアメリカで科学が大発展したのはバラモン教の再来だ。カミーズムのウラル教は宗教として大成した仏教の光と陰であり、キヤピロリズムのバラモン教は科学として大成したキリスト教の光と陰の關係に成っている。これが三五教に源を發し他国で育つたことだである。

塩長彦も常世彦も大国彦もアザムを知っていた。中国米國露國は自國語にアザムを取入れる。元元は源地球語、つまり地球固有の音声基底思念である。八王や八王八頭に成る、以前の天祥地瑞の八尋殿が二百三十年前から培ってきた。それを参考に塩長彦や常世彦や大国彦が中国や露國や米國でウラル教やバラモン教が花開き、それが仏教やキリスト教で宗教や科学になる。その一方で三五教は表田の外回りで高位地を作ることに長ける。

だが、三五教はこの太陽系の住人からの援助をひた隠し、高位地を作るノウハウを独占する。そして誰にも気が付かれないように、秘密裏に宇宙人の援助を受けて、高位地システムつまり、八尋殿とヒヒロカネのシステムを独裁する。そのために、その太占を誰も知らず気が付かない。別室は公開を迷っている。何故か、常世會議の一件が尾を引いている。三五教の仲間意識に付け込んだ妖幻坊の息のかかった獅子身中の虫の不正が三五教の良心を狂わせている。狂いが生じた天之岩戸開きは失敗する。

その前に千引き岩閉じが成されねばならぬからだ。千引き岩を閉じるのは三五教の役目だ。誤差を作ったのは三五教だ。千引き岩を開いたのは三五教だ。だから三五教が閉じる

のだ。別室が戸惑えば戸惑うほど結果的に妖幻坊に有利になる。なぜ、そうまでして隣の星の真相を隠すのか。なぜ別室が支配しなければいけないのか。そんな理由はない。理由がないことに気が付いたら、どうするのか。そこが賢者明哲と獅子身中の虫の違いだ。

ないには二通りある。三五教で唯一、日の出神だけが気づき三五教の知らないネバーとナンの違いを獅子身中の虫は悪用した。それが文部科学省が言霊を潰す原型になる。今の日本語の乱れは仕組まれた物でありその仕組まれた悪因子を除けば自然に収まりが付く。今の地球は酷い状態だがそれは無理矢理悪を仕込まれたからだ。善因を押して悪果に苦しみ悪因を押して善果に酔いしれたら誰も良いことをしない。在ると無いには人間の活動で変化するときとしない時の二種類在る。それを使いこなすには場がどうでるかだ。場と仲良くすると場と和合する。だが場から略奪の限りを尽くす者は場と和合できない。場が和合しようとしても自分の殻に閉じこもり場から遠ざかり実在と疎遠になり、やがて滅んでしまう。人間の研究開発能力は実在する無限と親和して初めて真価を発揮する。当然、言語はそのための有効な道具だ。それが隱身言霊だ。

## 外交の歴史

地球はどうなるか。それは因縁の身魂の動き次第だ。因縁の身魂の動きは民の動きだ。旗の仕組みは一輪の仕組みであり言霊の仕組みだ。それは日本に源を発し日本では廃れてしまったが他国で育った何かでそれを日本が取入れることだという。とすれば英語や漢語の隱身言霊を研究すればよいということだ。それがアザムだ。それを日本が取入れるとは



何か。

漢語や英語では話しの表田の形が透けて見えるというのがいい言葉だ。読んだり聞いたれば表田の形に見えるというのがベストだ。文法を越える新鮮なアとザが生かされる濾過でネバーとナンを分離して漉しだした純粋なネバーを話せることだ。特に専門用語で漉しだせる者は重宝がられる。

日本人は、誤差を修正するノウハウを取入れるべきだ。海外から漢語や英語を日本語に取り入れ宗教や科学を取り入れた。訓読みの上に重なるようにして出来た言葉をアザムで分類もせずには日本語的叙情感で配列した。その結果、何故、その文字が生じたのかさえ分からない、何故、その文字をそう読むのかさえ分からない事態が生じた。

言葉を押さえ込みたい別室は、縄文は先史であるという文部科学省の縄文に文字無しという会見を黙認する。進化論が嘘と知りながら場から星へそして地球へという宇宙移民の歴史を語らない。日本人が叙情感で語るのをやめねば日本人は言葉を話せない。

日本国内閣調査室別室の地球鎖国政策は地球人を地球に封じ込めた。異星人との交流は断絶し、場と星は忘れ去られ実在しない観念と実在する有限を見ても、ネバーが実在する無限であるという認識は忘れ去られ、試行錯誤を繰り返せば何でも出来るというような考えに成った。別室が掲げる宇宙で最も神聖な大成奉還の大義のために天涯孤独になつた地球は国祖の自負心のために宇宙の掃溜めに成ってしまった。

縄文時代まで日本の言語は世界中の隠身言葉の最先端をいつていた。世界中に八尋殿を広め世界中に隠身言葉を輸出し世界中から隠身言葉を輸入していた。縄文時代では様様な言葉が溢れ研究されていた。あちらさんではこういうそうだ。そちらさんではこういうそ

うだ。そこで考えるにこういうふうなのがいいとかしていた。比較分類しよりよい訓読みの理解を樹立せんとしていた。

それが受験日本語の大本になる。縄文時代に世界中の隠身言霊を取り込んだから、その経験が日本語を地球のすべての言語の隠身言霊に対応可能にしている。そのため他国語を取入れることを可能にしている。他国が訓読みを練るのに、日本人が訓読みを粗末にしても日本語が消滅せず、残ったのはそのお陰だ。縄文時代にもうすでに完成し、優秀だった隠身言霊のお陰で、受験日本語の叙情感でも何とか響きを保ってきた。

響きの中にある固有の叙情感の共有が受験日本語を作る。受験漢語や受験英語が作られる過程で、日本人は英語や漢語や日本語本来の隠身言霊を理解せず、四八音固有の響きの叙情感にあうように英語や漢語を取り入れる。そのために受験外国語は言語共通の訓読みの分類の隠身言霊がない。そこで日本人は隠身言霊のない受験外国語を公式の場で話し表田の字の形を使う外交の公理を無視し響きを買う。

外交の奥義は言葉の奥義でありそれは叙情感ではない、それはアザムだ。叙情感で交渉してはいけない。叙情感はアザムを説明する方便に過ぎない。メインはアザムだ。日本人はメインを封印し補機でしている。縄文時代各地と交流しそのこと八尋殿言霊加工貿易をなしていた。日本語は各地の言霊を取入れた経験がありそれが元で今の日本人は他国語をたやすく日本語化できる。だが日本人は縄文が終焉してから訓読みの再構築をしていない。国際外交上では仮名で訓読みを再構築する才覚が物をいう。自他の訓読みを検索し表田や無いや夢に分類する。自他の結節点を見出してそれで何とかなる。それはこうだと成つてそこから新たな可能性を見出す。しかしそれでは不完全未完成で、森羅万象と誤差がな

いように持つて行くことを繰り返すのが問題解決の公理である。

縄文時代まで日本では外交の公理は当たり前であった。当然、縄文の隠身言霊は世界の最先端を行き各地に広まっていた。当時の日本ではみな自由に表田の形に隠身言霊を使い最高の場力を推敲し無限の人生を豊かに生きていた。

支配を超えて

戦争原理なんて、ナンセンスだ。法律による統治ナンセンス。資本の論理ナンセンス。時代遅れの産物だ。規制緩和、小さい政府、役立たず。それより、国や地方の借金を減らせ。借金は、場から遊離したから出来た。それが誤差なのだ。なら誤差を修正すれば借金は返済できる。原型により完成すれば富を生むのだ。

日本人は劣悪な環境を強制され別室に逆らうことも出来ないまま地獄に落ちていく。それはおかしい。日本人が表田に気づいたときそれが言える。真の開国になる。その表田が言える日本人。それが日本人の役目だ。

表田も使わずアザムの使わずエリア88も使わず、ですますアイウエオ調和漢外来語のごちやまぜで、我慢に我慢を重ね、劣悪に耐え、ここまで来た日本人。その日本人だから言える表田である。それが国際外交を最適化しすべての問題を解決しえるのだ。日本人がアザムもエリア88も使う時、ことはなる。破壊が創造に向かうのだ。その時なにが起こる。構造改革だ。庶民に栄光が回ってくる。民は皆、場とダチになる。我慢した日本だからこそ、まさに自由を得る。それが世界の民のお手本になり、世界中が自由を得る。

内閣調査室別室は、場と力の間と宇宙と地球の間に強大な識閥として存在する。部長は障壁に守られ誰にも知られず隠れながら民が部長にひれ伏すのを待つ。しかし情報操作で路頭に迷う民は誰も大成奉還しない。無理が地球を滅ぼそうとしている。だからこそ日本の民が言えるのだ。支配を超える。日本は場や宇宙そして世界に言えるのだ。日本の庶民がいおうとして言いきれない漠然と感じるそれが、それなのだ。

別室が何だ。ただの張子のトラではないか。神霊や物質をでっち上げ支配の道具に使うとは言語道断。民を路頭に迷わせ、従うか破滅かに追い込んで支配する。それが正しいことと思うか。そもそも支配階級なぞ物理にはない。支配階級を創始したのは三五教だ。だから庶民は真相を公開するように運動すべきだ。

別室は異星人に頭が上がらない。異星人は地球とコンタクトしたい。しかし獅子身中の虫の不正で極東の三五教の別室は完全に機能不全に陥っている。そこで民が異星人や場を味方につける。異星人の援助を受けた民が言えば部長も認める。日本もアメリカもロシアも切札は異星人だ。民が単独で真相の公開を求めても別室に潰される。しかし異星人や場の援助を受ければ話は別だ。

今、日本の民は、場と異星の援助を同時に受けられる立場に有る地球で唯一の立場に有る。それは表田のアザムやエリア88を使うことだ。別室が場力と異星の間に識閥となり地球に封じ込められ苦役を強いられる。こんな馬鹿なことはない。地球の構造上、日本の国と民にしか型の仕組みが働かない。今まさに庶民がその型を出さねばならない。週に、三時間ボランティアするだけで一生優雅に生活出来る。学校にいつて受験勉強する必要もないし社会に出て一生働く必要もない。お金を支払わずに必要ならず何でも手に入る。

そんな生活が出来たのだ。今、日本の庶民がいねばそれがならんぞよ。それどころか地球の命運が尽き滅んでしまう。識閥に取り囲まれた地球人には真相の公開を迫る権利がある。識閥を破らんとしても自分で自分を破るだけだ。それが別室という障壁だ。だから誰も別室に逆らえない。だが場は自由だ。誰でも場と自由に生かされる。支配者は庶民の味方ではない。場を隠蔽する別室は場の味方ではない。大成奉還が場力共鳴ならなぜ別室は場力の間を切断するのか。別室は庶民が場に気付かないようにしている。

アザムが日本の教科書に出てないのはおかしいと言わなければならない。アイ アム アジャ パニーズはおかしいと気がつかねばならない。アザムで考えれば当然隠身言霊はアザムだと分かる。混交文と仮名は全く別だ。そこを言わねばならない。支配なぞ成り立たないといふべきだ。それを平成の目安箱にアザムのファックスを庶民が送信するようになれば政治家も考えるだろう。別室という識閥に封じ込められた庶民はなぜ苦役を強いられるか。皆が皆、楽しく生活できるのに、それを禁止されている。

支配を支えるために悪がはびこる。だから支配などいらないだろう。法律も支配者も場の邪魔だ。いつまでも支配を許していたらいつかは必ずこける。絶対支配権の確立は地球が滅びる。大成奉還の真実はペテンだった。三権は民衆を不幸にする。なぜなら、幸福の定義はいまだに成されてない。言葉とは何ぞやという問いに答えられないからだ。それは実在する無限を見ないからだ。見れば文明の故郷も場に有ることが分かる。

国常立命や素盞鳴命でさえ月に大成奉還はいらないとハッキリ言っている。なら地球でも識閥の部長はいらない。国祖は月では自由を謳歌している。だがなぜか地球では自由を抑圧する。月では自ら率先して自由を行使するのに地球では自由を潰す。月では支配は滅

びの元と言っておきながら地球では支配を目指すこの矛盾。民がここをいうべきだ。政府は嘘を言っている。

自然を助けるものが自然に助けられる。自然より人間を優先すれば自然の加護は無い。しかし人間が自然を優先すれば自然は人間自身を助けてくれる。天佑神助は天は天を助けるものを助けるだ。天然自然と誤差がないとき人は天を助けているのだ。森羅万象と誤差がないとき、天は人を助けるのだ。

法律が法律を超えた場を想定するかしないかが問題だ。三権の長が場をどうするか。政府は、場をどうするか。人間は場に頼らなければ生きていけない。それには場の原理に従うしかない。戦争原理はやめなければ成らない。社会全体が時空間を癒すシステムでなければ場が来ない。法律や資本の論理は馬鹿げた話だ。それは強い者勝ちの弱肉強食。そんなものに場が出ない。出てくるのは兇党界だ。

かつて経営の神様は場をみていた。世の中に役立つ物を考え、それを実現するにはと考え、それを実現するために資材や人材を配置した。それで栄えたのだ。その目安が売り上げだ。神様は資本の論理で動かなかった。役に立つことを考え実行しただけだ。それが、成功に結びつく。

成功し豊かになった社会の中で法律や資本の論理で動く者たちが、お金を求めバルブを起こした。善意を動かすことが出来ないお金持ちが増えたためだ。新たな正直が求められる。利潤追求を叫ぶ者たちがぶつ壊しやがて何もかも失うことになる。戦争原理で動く者たちがやがて日本を滅ぼし世界を滅ぼすのが歴史の習い。

場力と異星から切り離された子供が大きくなり大人になって、場力と異星の伝統を受け



継いできた伝統を受け継がない親は、子に伝統を伝えられず、自身が場の本体と関わりをもてなくなつた。団塊世代が子供のころ、まだ豊かな天然自然があり、伝統はそれなりにあつた。しかしそれらは解体され天然自然もなくなつた。

愛されたことの無い者は、愛することが出来ない。成長の段階で場の本体と力の関わりに過干渉と放任を繰り返されて育つた者は、場力の関係に異常が生じ正常を保てない。成長の段階で場力の関係を適切に愛されて育つた者は対人関係で周囲の場力を正常に保ち皆に愛される。ところが過干渉と放任で育てられると人間関係で周囲の場力を異常にして健全な人間関係を保てない。

現在の日本の豊かさの中で場力共鳴と健全な関係を保てない。何故なら、これらは無限からの連なりであるからだ。自分自身が時間的に無限の過去から今までどうつながつてきたか。無限に広がる空間の中で自分自身と無限がどう関わるのかを思索する寸尺法は伝統の中で見つけるのが一般的な方法である。

戦後、みんな捨てちやつたから、場と自分を考える単位がなくなつて、アイム アマ イ セルフ アイ アム ア ミーの曖昧MEになつている。その点、英語や漢語は伝統が今も息づいていて、アイム ザ マイ セルフ アイ アム ザ ミーになつている。

## 政府の無策

文部科学省は言霊隠身がアザムと同じだと言わない。八尋殿とヒビロカネをピラミッドとトリスメギストスと言わない。霊と座がサイ アンド レイと言わない。神と人がヒ



ユー・アンド・マンと同じと言わない。

それは三五教の別室のご意向がそうだから、正しくいう奴は潰され、結果的に言霊を潰す者が優遇される。その結果、別室は日本から言霊を抹消して、自然との一体化を排除し別室を中心とした管理システムの構築を目指すのだが、結局森羅万象によつて生きているすべてを別室の管理システムは、全く扱えずあちこちで破綻し今、地球は痛んで傷ついている。

別室による支配は地球のリソースを消費しシステムは崩壊の危機に直面している。何人たりともあらゆるすべての代わりは出来ない。あらゆるすべての代わりはあらゆるすべてにしか出来ない。地球が混乱したのは三五教が自然に取つて代わろうとしたことに原因がある。日本が別室の支配を撤廃すれば型の仕組みからロシアもアメリカも別室制度を撤廃する。日本が場と力と星から星への真相を公開すれば、アメリカもロシアも宇宙の真相を公開し異星人の存在とその援助を公式に表明するだろう。

型の仕組みや一輪の仕組みは本来は場力と異星の仕組みである。それを獅子身中の虫の野心のために森羅万象に神霊や物質がないことに気が付いても、誰も何も言えないように社会制度が出来上がった。どの星の進化の過程でも宇宙文明に加盟する時には必ず混乱は起こるものだから仕方がないが余りに惨い。しかし場力には型の仕組みや一輪の仕組みがある。三五教が場力に立ち返り真相を公開すれば収まりが付く。大成奉還の大義を掲げ無為無策を続ければ傷口を広げやがて致命傷に成りかねない。

言霊を考えるに、縄文時代までは場力と異星の真相は伝わっていた。一万二千年前の、大戦争を生き延びた人人は大洪水大戦争を繰り返さんと肝に銘じ各地に散つていった。だ

が人類はまた争いを起こすように成った。八尋殿の造営は各地で停止して人人は戦火に逃げまどう。それは八尋殿の本場の日本にも写る。三千年前、神武天皇は世界に対処するため中央集権国家を構想する。日本を管理すればそれが型になり世界を管理できると考えたのだ。

だが、それは間違いであつた。何故なら型の仕組みは国祖や神武天皇の意図した管理システムを構築する型には成らず、外国に支配する管理者が現れる型になつたからだ。型の仕組みは管理者そのものを受け入れないように出来ている。支配者になるとそれが型になり目の前に自分を支配しようとする者が現れる。それは三五教が森羅万象に立ちはだかるから三五教の前にウラル教やウラナイ教やバラモン教が立ちはだかる。

型の仕組みや一輪の仕組みは隠身言霊の仕組みだ。それは、科学的真理的宗教的原理の樹立ではない。神霊的真理的物質的原理の樹立でもない。場力と星の真実だ。古代地球語に源を発し他国で育ち音声基底思念を残したが、別室の政策で潰され古代地球語の残骸の掃溜めと化した今の日本語が失つたそのものの回復だ。

ドスとデスの違いは縄文の人たちには当たり前。しかしデスを使うことを強制された、現代日本人に違いを認識させ自覚させることは、因習文化を全面改正することだ。これは至難の業だ。伝統と格式を重んじるおかたを説得させるのは大変だ。だが簡単に出来る。それは誰でも頭脳は違いを認識している。それを無理にあわせているに過ぎないからだ。ストレスに成つてると分かればいいのだ。それは誰でも簡単に自覚できる。

今時のパソコンがあればすぐに出来る。例えば自分の声でデスとドスをパソコンに録音する。パソコンで「ドス」や「デス」を拾い、短くして繋げて音声を作る。パソコンには

簡単な計算問題が表示されノイズを拾わないようにヘッドホンを付けてザザ、ガガというような状態で聞きながら答えを打ち込んでいく。パソコンで音響を加工してFM変調したり拾う時間を短くしたり長くしたりする。

そうしてドスカデスカ分らないまま、計算問題や暗記した数字を打ち込んで正解率を測定する。結果を集計するとドスが高くデスが低いことがわかる。ドスのほうがデスより正解率が高いことがわかる。この手のフリーソフトを開発しネットで公開し、結果を共有し全世界規模でデスドスでは人類に對しどちらがネガティブかクリエイティブか調査することは造作もない。

だが難しいだろうな。バキウムは内心三五教に大成奉還の大義名分を撤回してくれることを期待しているだろうが三五教はバキウムの期待に答えないだろう。諸悪の根源は国祖の政策にあるのだ。三十五万年前、常世彦が民衆の支持を得たのはウラル教の教義が無いと夢の使い方だったからだ。

国常立命は隱身言霊を言霊と言った。しかし常世彦は言葉と言った。それは所詮人間にすべてを扱えるはずがない。所詮すべてと言ってもすべてと人間が言っているに過ぎないではないか。国祖は名詞のつもりで言霊を言霊と言ったが言霊は文字で書いているのでは言霊本来の意味ではない。

国祖はそのことに気が付いていない。国祖が言霊と言っても発音しただけであり国祖が自身で言霊と言っても、実際に国祖自身が言霊ではないし国祖がすべてを管理しているのでもない。国祖は言霊を尊んで言霊というのが言葉の持つ特性に気が付いていない。人間の発動は所詮有限だ。言霊というも真実の言霊の中にいる人間の頭脳の活動の電位の産物の

意識にすぎない。

國祖は一介の人間に過ぎないのに、自らを神と名乗り、民衆を支配しようとする悪神だ。私は民衆の意見を代弁しているだけだ。三五教のように森羅万象に取つて代わらんとはしない。自由行動が天測違反だつて。自らの根本原理に従い行動することが天則順守だという。常世彦の話を民衆は支持したのだ。

### 三五教の無策

本来は三五教の田圃の田の字を描く八王八頭とウル教とバラモン教の田圃の田の字を描くアザムで完全なのだ。それが現在にも作用して、八尋殿の中枢の日本本土には八尋殿を、再稼働出来るシステムがある。その封印を解くことが大峠だ。システムを再稼働するには時空の修復が必要だ。

型や旗の仕組みの一輪の仕組みは言霊の仕組みである。言霊の仕組みは、古代地球語から源を発し、今の日本から失われたが他国で育った言葉の仕組みであつて、それがアザムの仕組みである。それは日本語で、隠身五神や八尋殿とヒヒイロカネや霊と座であるように、英語ではパトモスドロンパやスタジオやピラミッド トリスメガストスや、サイ アンド レイであつて、漢語の盤古と五帝と山と丹や氣と経絡秘孔だ。

今までのように一輪の仕組みを、不完全未完成な実在する有限と実在しない観念で行う時、科学的真理的宗教的原理の樹立に向かう。だがそれでは過去の二つの災いがドッキングしてとてつもない無理が生じ破綻してしまうだろう。一輪の仕組みが完全完成であるに

は実在する無限であるしかないのだ。神霊や物質が兇党界のまやかしだったと三五教は認めるかどうかだ。だが三五教は完全に矛盾に堕ち機能していない。

日本国内閣調査室別室が三五教の真の姿である。国体論の真実である。護国鎮守を司る別室がいまさら追い出した場力と星の真相を有り難く受け入れるとは思えない。しかし、別室制度は天則違反と言っても聞く耳もたんだらう。どうする。この真相を日本が公開すればアメリカもロシアも公開する。道彦が国常立命に決断を迫った時に獅子身中の虫に握り潰された常世会議の密書の真相だ。王仁が常世会議が人類の命運を決するといったのはこのことだ。

ウラル教は宗教として無いと夢で完成し、バラモン教は科学としてアとザで完成した。だから言霊はアザムだが完全完成は場だ、幽冥界ではない。幽冥界は後世の人の創作だ。実在しない観念だ。宇宙文明であるなら地球でも完全なる完成が出来るのだ。

当然、地球でも場力共鳴を起こせる。神通力が在るか無いかは腸脳発電が出来るかいなかである。太古から現在に伝わる伝統の中に太古の英知が残っている。例えば相撲の横綱の土俵入りである。相撲は祈請の伝統を良く残している。縄文の民が場力共鳴を使っていたなら当然その名残が相撲に残る。不知火の型が決まるとき神柱が立つ。そこでそれを使い腸脳発電を起こすのだ。

正しい体力は正しい姿勢。健全な精神は健全な肉体に宿る。正しい型を醸すだけで、命の泉が湧く。人体の機能を使うには心技体が揃っている必要がある。それは姿勢だ。体位である。霊と座の機能を使う体位を取るだけいい。人体が八尋殿でヒイロカネであればよいのだ。

縄文人も異星人も生活の基本は田圃の田の字を描く多国語と外回りである。地球ももとは移民から始まったのだから地球独自の生活基盤を築くにあたり他之天体の住民の援助がある。ただ、それは現在では秘密であり公開されていないだけだ。ここが難しい。何故なら異星人の援助は常世彦や国常立命や素盞鳴命など靈界物語の登場人物に懸かっている。異星人は因縁の身魂を使うからだ。それは因縁の身魂が物語の行動と同じ行動をするからだ。

物語のなかで唯一田圃の田の字を描く言行一致を成したのは道彦と八島姫だけだ。だが獅子身中の虫の破壊工作のために道彦は濡衣を着せられた。ようやく三五教は過失に気づいたが道彦の汚名を晴らそうとはしない。三五教が適切な処置をしていれば道彦のダメージは少なかったろうし地球はとくに大峠を越えられたろう。しかし道彦は傷口を広げ、もう動けない。

この状態でようも三五教は道彦の理想を実現するのだと意気込んでいられるな。信じられん。道彦が何故ミロクと言われるか。それは道彦が靈界物語で唯一実用に耐える正直を成したからだ。

秘訣は田圃の田の字を描く言行一致にあるのだ。それを日常に結びつける。当然、それは誰もがあこがれる異星人の宇宙船や超能力やピラミッドの開発に繋がる。場力共鳴エンジンや腸脳発電生殖技法や動植鉱物生産プラントが鍵を握る。だがこの手のシステムは、別室の管理するシステムと重なる。当然、別室と話が合わねば王仁の二の前になる。

本来はいらないはずだが大成奉還による別室制度が在る限りやも終えないのだろうか。自由行動を天則違反とする。それは支配のためには仕方がないという。しかし宇宙文明で

は別室制度が天則違反だ。これが問題の根本になる。何とか成らないのだろうか。道彦が必死に支えた森羅万象。しかしもはや道彦も傷つき別室に鯉節にされ地球の森羅万象は朽ち果てようとしている。

## 別室の傲慢

今まで発言を控えてきたが別室が余りに道彦を粗末にするので申し上げる。迷惑だ。もう既に大成奉還してしまつていたと別室が承認するしかない。戦前日本で三十五万年前の道彦の再来の王仁が大成奉還しなかつたか。戦後アメリカで一万年二千年前の三千彦の再来のアダムスキーは大成奉還しなかつたか。そうではない。三五教が認めなかつただけだ。この雛型が示すのは常世会議の一件で道彦は大成奉還していた。その密書を獅子身中の虫が国祖に差し出さなかつたと物語に出ている。

戦前王仁の実績を獅子身中の虫が不当に評価したことが分かつているではないか。戦後でも苦戦するアダムスキーを見て見ぬふりしたではないか。これは別室が部下や良の金神を評価しないから大成奉還が成り立たないのだ。大成奉還してしまつていたのかと評価すればそこはすでに理想社会だ。

意識はあらゆるすべての代謝の産物である。人間が天然自然と一体化しない限り人間の意識が天然自然を自覚することはない。人間はあらゆるすべての構成要素であるが人間の意識は人間自身が森羅万象との誤差をなくさなければ天然自然を読み書き算盤出来ない。森羅万象との誤差がなくなければ人間は天然自然を読み書き算盤出来ない。



場力共鳴に基づいた量子呼吸による腸脳発電だ。人体はあらゆるすべてと一体化すると量子呼吸が腸から噴き出し脳に吸い込まれる。その時、神経が発電する。この時に情報やエネルギーを発生させる。この状態での代謝が生み出す意識は天然自然を読み書き算盤している。つまり完全無欠な無念無想である。

量子呼吸が生み出す情報やエネルギーは完全を志向すればするほど果てしなく大きくなる。森羅万象と誤差がないを追求すれば無限大の情報やエネルギーが手に入る。それは、送信と受信の関係であり森羅万象は果てしない完全無欠であり、こちらでいくら情報やエネルギーを受信して誤差を消しても、あとからあとからいくらでも完全性を送信してくれる。

我々が至福の幸福を追求すれば、いくらでも場は期待に答えてくれる。それは八尋殿であり英語のオルガナイザーである。ハイパー インヤンジャー グリス ポジションである。人体がカルテ カタパルトになつてゐる。

三五教の欠点は団体の団の欠点である。国祖を名乗つたのは、自分を中心とした権力を構築し、反対勢力を押し潰そうとしたのだ。ここが欠点だ。それが摩擦を生み、地球から場力共鳴を疲弊させ、時空間免疫システムを疲弊させ、時空間免疫疾患を抑えるためだと言つて、時空間免疫抑制剤を大量に投与した無理な外科手術を繰り返すから時空間病原体を増長させるのだ。

三五教が場力の間の障壁になつてゐる。天之岩戸を閉じて天之岩戸を開かんとするから天之岩戸が壊れる。三五教は獅子身中の虫が悪さして正直者を陥れているのに獅子身中の虫に悪ささせ放題。だがまてよ。宇宙の哲理は同じものは集まる。物事は繰り返す。物事

はほぼ相対的に出来ているのである。

それなら、悪と言えどもそれに拮抗する善が在る。悪が毒なら善は解毒剤。どんな悪にも利用方法が在るといふ。悪と言えども悪を取りいれて善に出きる。悪が悪を生み出す今の地球でその悪を取り込んで善にする。毒でもそれを分解して栄養にしてしまえば良い。実際に実在する無限が在るのなら相対的に悪の例外である善もある。

三五教が場力の間に障壁を作り場力をぶつたざるから命が壊死し腐敗し病気が起こる。無限との整合性がないというのは天然自然成分が摂取出来ないことだ。栄養が届かないなら餓死する。国祖は天之岩戸を閉じて大成奉還をすれば開くというが、部下が一所懸命し

ても評価してくれない。霊界物語には、それどころか国祖は獅子身中の虫の讒言を受け入れ折角の大成奉還と評価して申し分ない部下の実績を認めず左遷させたことが出ている。

実はもう既に大成奉還はなつていたのだ。天之岩戸は国祖によつて開かれる前に既に開かれていた。あとは別室部長が大成奉還はなつたとして場力と星から星への真相を公開すればよい。天之岩戸を閉める場力と星から星への真相を隠す障壁なぞ始めから必要ない。何故なら天之岩戸は始めから開かれていたからだ。大成奉還は国祖の一人相撲。三五教の自由行動天則違反の忍耐教義は素盞鳴命の一人相撲だ。

時代にあつた神政をと部下や豊雲野命や天之御三體之大神が国祖に進言しても国祖は聞く耳を持たなかったが、なぜか初代天使長の大八洲彦命が破軍の剣で殺生したのは天使長としてふさわしくない、という国祖に左遷を進言した常世彦のスパイの言つたことを聞き入れたり、道彦の密書を国祖に差し出さなかった獅子身中の虫の嘘を見抜けなかったことが、霊界物語に出ている。

ところがその型を反省すればスパイの偽美山彦に当たるのは誰か、獅子身中の虫の再来は誰か分かります。そのなものは、美山彦に偽美山彦と本物の美山彦がいるのは部下が賢者明哲としてだけ働くのではなく、敵のスパイとして働くこともあることを示しているからだ。初代天使長の再来は西郷隆盛であり、大久保利通などが敵のスパイや賢者明哲の再来であり、獅子身中の虫の再来が東条英機や近衛文麿だ。

歴史で習う授業はこのスパイや獅子身中の虫の主張である。霊界物語で良き部下が国祖に進言した内容を教えない。それは国祖が良き周囲の意見を否定し周囲の悪意を受け入れるからだ。良き周囲の意見の時代にあつた神政とは、ようするに国祖は場力を遮断しているから摩擦を生み出すのだ。だから障壁で抑えるのではない。自由に場とアクセスできるようにすることで往來を盛んにし共鳴を増大させるべきだといった。

つまり天之岩戸はもうすでに開いていた。一度目も二度目も天之岩戸は開いていた。開いていた天之岩戸を開くことは出来ない。大成奉還はもうすでになつていた。周囲の意見はそういったのだ。それを国祖は、スパイや獅子身中の虫のために気がつかなくたと書いてある。

ということは大成奉還は人類が存在する以前になつていた。別室が現われる遙か以前に大成奉還も出来上がつていた。天然自然の中に初めから実在した。大成奉還は人間が承認するのではない。無限が保証するのだ。個人や組織が承認する大成奉還は間違いだと部下は国祖に意見するが国祖は受け入れない。それが国祖の一人相撲だ。物語には国祖がスパイや愚か者にいいようにあしらわれ、良き部下を蔑ろにしたと書いてある。

三五教の元締めである日本国内閣調査室別室が、大成奉還はすでになつていたと認識す

る。なにをしてももう既に大成奉還になつていた。それなら「貴様、もうすでに大成奉還してしまつていたな」とか言つて親切の限りを尽くす以外に方法はない。

### 三五教の問題

この限界をどう扱うかが先史と有史では決定的に違う。最小単位を割り出せばその組み合わせで全部が説明できるはずであるといふことだが、その最小単位の向こう側があるはずだが、最小単位の向こう側とこつち側が、完全にスタンドアローンで何の關係もない完全に別と考えるか、それとも何らかのやり取りがあるのかと考へた時の違いだ。

先史と有史の意識の違いがここにある。先史では意識は限界で終わりではない。意識は生命の最小単位である細胞や、あるいは量子の向こう側つまり時空の背後とリンクしてゐた。つまり意識は力だけでなく共鳴原理で代謝を使い場と相互作用してゐた。当然意識が場から情報やエネルギーを取り入れ成長できる。超能力や超科学を使える。より強い場力の融合を求めるから意識は完全無欠と誤差が無いように向かう。

人間性が向上する教育や、環境破壊も起きない科学技術が発展する。経済は天然自然の完全完成成分が労働の大半を肩代わりしてくれるから人間がぶらぶら遊んでばかりでほとんど働かなくても経済成長は続く。

こういったことはヒビロカネのライフラインでなければ出来ない。お金のライフラインでは成り立たない。なぜなら通貨や硬貨で決済出来ればそれが場力共鳴か。印刷された紙や金属に何の共鳴機能がある。ありわせん。お金を使えば使うほど完全無欠と誤差が出

る。お金を動かしているのは人間だが人間の愛や善で動いていない。お金は欲望や野心のほうがお金を動かすからだ。確かにお金をよきことに使う人もいるがお金を使うことが正しいと保証するのではない。完全無欠であることを保証していないからだ。

お金を使えばお金になる。ヒヒイロカネを使えばヒヒイロカネになる。お金自体が忽然とヒヒイロカネになったり、ヒヒイロカネが自分からお金になったりすることはない。お金は人間が作るが自然がお金の肩代わりをしてくれない。そうするとお金を支えるために人間は天然自然成分をすり減らしやがては人間自身の人間性さえお金に変えてしまう。

お金が人間性を奪いお金を生みさらに生み出されたお金はさらに人間性を奪う連鎖反応が起こる。それはお金が無限との運動を保証していないからだ。お金のライフラインではすべてが場と切斷されてしまう。人間の意識の活動が場と相互作用しないように傾いていく。それだけではない。お金のライフラインは戦争原理は場力共鳴しないどころか、場力共鳴を破綻させる連鎖反応を生み出していく。戦争原理は場力共鳴しないどころか、場力共鳴を破綻させる。

組織が本質を省みず団体の団を志向すると、政治の本質は失われ国家権力が場力共鳴の真相を覆い隠し、科学の本質は失われ科学の殿堂が場力と星の真相を覆い尽くし、宗教の本質が失われ宗教団体の団が腸脳発電を覆い隠す。悪循環が悪循環の連鎖反応を生み出して歯止めがかからない。霊主体従から山河草木の時代や有史以降がそうだ。

だが先史ではどうか。天祥地瑞ではどうか。ヒヒイロカネのライフラインでは完全無欠を取り入れ活用する。社会は有効な人間性を蓄積し腸脳発電は人間性を高めてくれる。この状態では善が善を生み出し平和原理が社会を動かしていくことになる。

お金はお金、ヒヒロカネはヒヒロカネであつてお金自体が突然ヒヒロカネに成ることもヒヒロカネがお金になることもないが、使い方でお金と言えども無限に発芽すればヒヒロカネで、無限に発芽したヒヒロカネと言えども枯れればお金に成る。文明や文化もこの差で決定的に違う。文明も文化も人間の英知を集約して成り立つから単位をヒヒロカネがお金にするかで人間の英知が善に向かうか悪に向かうかハッキリ分かれる。八尋殿を造営するか摩天楼を作るかの違いだ。目に見えて違う。はつきり違う。八尋殿とヒヒロカネはアトムでありお金と摩天楼はマネーである。この差は文明文化に与える影響が決定的に違う。原理が違うのだ。天之岩戸開きといつてもそれは意識が無限に発芽するかしないかで開くか閉じるかが決まる。

しかし開くと言えども、もともと天然自然は場力共鳴で出来ていて開かれている。それを開くのは無理だ。開いているものをさらに開くのは無理だ。八尋殿やヒヒロカネはもう既に天然自然に存在している。それは完全であり人類にどうしようもない。人類は人類だけで八尋殿を造営できないしヒヒロカネを作れない。なぜなら本来、無限との統合性は無限自身からの導きがないと成り立たない。無限が承認するかしないか、それは人間が完全無欠と誤差が無いを自身で選択するかしないかである。

お金と摩天楼は悪の連鎖を生み出していく。なぜならお金の動きは完全無欠の天然自然と連動しないから人間が支えるしかない。そこで支える者が損をする。支えても支えただけのメリットが無い。外れくじと同じで多くの民が支えて損をするからお金が成り立つのだ。お金は貧乏人から大金持ちに集まる。支えるばかりの損ばかりの多くの貧しい人と、支えられたお金の上前をはねる少数の大金持ちという構図に、二極化し勝組と負組を生み



出し激烈な下克上を生み、人人は摩擦の中で朽ち果てていく地獄が出来る。

この有史の歴史を我我は教育される。先史のヒヒイロカネと八尋殿を空想の産物と切り捨て考えさせない。先史の歴史は表田のアザムやエリア8で考えれば見えてくるはずだが教育機関は考えることをやめさせることに腐心している。なぜ三五教は善であることになる場力と星の真相を、潰して覆い隠しお金を生み出すのか。

ヒヒイロカネと言えどもそれは実在する無限に発芽し無限と運動しているからヒヒイロカネだ。人間には無限を支配できない。人間の意図したように無限を管理できない。無限は無限自身でしか管理できない。有限では扱えない。ところが国祖はそこに干渉した。その干渉が干渉を呼ぶ。三五教が生み出した連鎖が地球を悪化させた。このことは靈界物語に国祖の周囲の賢者明哲が再三警告したことが出ているのに、敵のスパイや獅子身中の虫のために周囲の良き忠告をお聞き入れがない。

大成奉還はもうすでに場によつてなつていたという認識に三五教が達していない。周囲の忠告を冷静に鑑みれば無限以外に大成奉還を成せる存在はない。無限は三五教の存在する前から存在し存在している今も存在し消滅した後も存在するから、大成奉還は三五教の成立する以前に成り立っている。天之岩戸はすでに開かれていたのに国祖はそこを誤解してしまふ。

大成奉還は場との運動でなければならぬはずだが実際は大成奉還は場と力を遮断している。それが国祖の過失だ。周囲の警告の真意を省みれば気が付いたはずだ。国祖の政策が組織を生み団体の団が遮断している。国家権力や科学の殿堂や宗教団体の団が遮断している。国祖の政策が生み出した連鎖反応がこれらの連鎖反応を生み出した。この連鎖反応



とは不自然である。素直でないということだ。

国祖はまったく部下や民を認めていない。地球の無限を過小評価している。大成奉還を成せるのは無限だけだが、その肝心の宇宙文明を隠蔽する理由が敵のスパイや獅子身中の虫の虚言に踊らされているからだ。その愚か者を裏で操る時空間病原菌の妖幻坊の存在である。病原菌は免疫が機能していれば病気になるように、時空間も時空間免疫システムの場合共鳴が円滑なら妖幻坊は手も足も出せない。

ところが国祖の過失がお金と摩天楼の連鎖を生み出し、時空間免疫系を破綻させ妖幻坊を増長させたことが、靈界物語の靈主体従から山河草木で書いてある。自分自身の中で、自分自身であることが完全無欠と誤差が無いである。自分自身の表田の中で自分自身のアザムやエリア88と寸分たがわぬことが天然自然と誤差が無いである。

だが三五教は妖幻坊の息のかかったスパイや獅子身中の虫の不正を浄化できず自滅した歴史を綴ったのが靈界物語だ。それなら別室は場力共鳴を復活させればよいはずだ。だが国祖が強情に認めなかったように別室もまた認めまい。有史は別室が良の金神の警告を聞き入れない歴史であつた。

こ  
れ  
か  
ら  
の  
地  
球<sup>ちきゅう</sup>

出来ない大成奉還

日本に起きたことが世界に起こりやがて日本に帰ってくる。アメリカの別室部長がアメリカの良の金神にとつた態度こそ日本の別室部長が日本の良の金神にとつた態度である。日本の中で獅子身中の虫やスパイと賢者明哲が入り乱れ日本の別室が兇党界に遊ばれている雛型が、石屋を重宝がるアメリカの別室の雛型になる。国祖は獅子身中の虫やスパイの嘘の金言を信賴して賢者明哲の苦言を聞き入れないから、獅子身中の虫やスパイが図に乗る雛型が石屋が暴れる雛型になる。

獅子身中の虫やスパイの嘘の金言をなぜ重宝がるのかと賢者明哲は思っていたが、それは国祖が善ひとつで固めたから大八洲彦命を罰するのだろう。きつと公正明大の見本をだそうというのだろうと賢者明哲は思ったからだ。当然、国祖には一厘の仕組みが在つてそれはきつと激しい仕組みなんだろうと思つていたが、実は国祖にも打てる手がなかつたのだ。

国祖が正しいというのは、国祖にとって実に都合がよいということである。そこで国祖の意向を笠にして不正を働く。国祖が悪いはずないという思いを逆手に取り三五教の名のもとに悪因善果、善因悪果を行使した。

獅子身中の虫や敵のスパイは、賢者明哲や良の金神に野心ありと嘘の報告で別室部長に思わせた。獅子身中の虫や敵のスパイは自分たちの野心を嘘の報告でごまかし、賢者明哲や良の金神に濡衣を着せてきた。

それが型になり世界中の石屋が別室部長と賢者明哲や良の金神を仲たがいさせることに

なる。石屋が滅美の型を出すのは三五教の内部で敵のスパイや獅子身中の虫が滅美を醸すからだ。滅美を受け入れる三五教の元締めのせいだ。月人が陣頭指揮をとる三五教には、悪人がいるはずない。大神が狼のはずがないという地球の三五教が騙されているからだ。地球を調べても真の悪が分かるはずがない。月の神集岳の前任の荒魂の指導者である、獅子身中の虫の不正のせいだからだ。神集岳にいた獅子身中の虫が月から地球の三五教に悪因善果善因悪果の指示をする。敵のスパイの獅子身中の虫は地球の正直のことなど考えていない。大神の仲間意識を盾に悪さし放題。

だから石屋が悪さして開き直る。石屋がしていることは三五教の内部で行われたことが実体化したに過ぎない。諸悪の型を出して開き直る獅子身中の虫の不義を見抜けない大神が、賢者明哲や良の金神の真意を見抜けず、いかげんな金言を認めてしまう。その度に兇党界に遊ばれ、その責任を良の金神の自由行動のせいにされてきた。

自由行動を禁止する政策は、民が場力共鳴する機会を奪った。民は完全完成市場における健全健康取引である、完全無欠と誤差のない最高の一手を見失い、不完全未完成市場で不健全不健康取引の有効な二手三手を強いられる。だから民に不満が募る。

最高の一手とは完全無欠と誤差が無いのことである。それに対し有効な二手三手とは、完全無欠と誤差がない以外の手のことである。無数の選択肢の中で完全無欠と誤差が無い一手しかない。残りはス力である。つまり有効な二手三手はス力のことである。どれほどの選択肢を用意しても完全無欠と誤差がない一手以外は場力共鳴が起きない。

最高の一手とは場力共鳴量子呼吸腸脳発電の一手である。場力共鳴量子呼吸腸脳発電を起こす手は森羅万象と誤差がない一手しかないのだ。その一手を吟味すればよいのであつ

て、場力共鳴量子呼吸腸腦發電が起きない最高の一手以外の有効な二手三手を吟味しても無駄である。

国祖の定めた政策は、有効な二手三手に過ぎない。完全無欠の一手ではない。賢者明哲や艮の金神は国祖に何度もこのことを警鐘した。国祖が賢者明哲や艮の金神を召しだし、忌憚なく上申させればこの事実が表ざたになったはずだ。獅子身中の虫や敵のスパイはこのことを恐れ、嘘をついてつきまくる。嘘から出た誠と言いつて国常立命や素盞鳴命に取る。そして型の仕組みを月から操り地球を混乱させ、やがてはその責任を国常立命や素盞鳴命の責任にしてその地位に取って変わらんとした。それが大黒主の雛型だ。

国祖は自分が治めようとした。国祖は自分が正しいから皆が自分に大成奉還を申し込むのであつて、自分が皆に大成奉還を申し込むのは間違いだと考えていた。自分に民が帰順し采配通りにしてこそ理想の世と考へた。当然、自負心故に頭を下げない。下げることは自分が最高の支配者であることを否定することになるからだ。別室部長は三顧の礼をしな

い。自分が絶対の存在であるからだ。別室は大成奉還の申し込みを待ち何もしない。別室部長は待つていて何もしないが雛型になつて、誰も三五教に大成奉還を申し込むことはないから三五教は大成奉還を待つということになる。このことからすれば三五教の型の仕組みのために民が別室に大成奉還を申し込むことは無い。

別室部長が大成奉還を待つ雛型のために、民草は大成奉還が出るのを待つことになる。三五教が大成奉還されるのを待ちつづける限り三五教は自分の意思で大成奉還しない雛型が出る。当然、民は自分の意思で大成奉還しない。型の仕組みから考えて三五教が自分の意思で大成奉還をする雛型を出さない限り、民が三五教に大成奉還する雛型が出ないはず

だ。

三五教の内部の賢者明哲や良の金神はそのことを警告したが国祖は聞き入れなかった。国祖の政策は有効な二手三手であっても、完全な最高の一手ではない。八王八頭や神宝は八尋殿やヒヒイロカネを食い潰したただけではないか。

最高の一手を死守すべきはずの三五教が、陣頭指揮をとり、ないがしろにして、有効な二手三手を重宝がるから地球で宇宙文明の英知が廃れるのだ。人間は最高の一手で遊んでいさえすればよいのだ。働いても働いても有効な二手三手では、苦しむだけだ。

本来、場は力を場と寸分たがわぬようにする。当然禽獣虫けらまでも場と誤差がないように生きる。それはすべてが場力共鳴するということ。あらゆるにはあらゆるアクセスポイントが無限に在る。その場力共鳴のアクセスポイントを閉鎖しようとすれば、言霊の総攻撃を受ける。国祖は国祖自身が、正当な場力共鳴のアクセスポイントであると考え、国祖自身以外のアクセスを禁止した。

国祖は大成奉還を待ち続けそして潰れた。この型が示す事実は民は国祖のように自分の意思を行使しない行動に出た。忍耐を以てやり過ぎす。国祖が自分の意思を行使しない型が出た以上、民は自分の意思を行使しない。国祖が自分で大成奉還を他人にしない以上、民が自分で大成奉還することはない。国祖が自分で大成奉還する型が出れば、民は自分で大成奉還するはずだ。

国祖が良き部下を認めない型は上司を大事にせずことなかれ主義と官僚主義がはびこる社会そのものだ。

大成奉還が、完全無欠と誤差がない最高の一手であるならば、八尋殿とヒヒイロカネは

減少したりしないはずだ。しかし摩天楼とお金ばかりということは最高の一手ではない。国祖は最高の一手を大成奉還とみなしていない。大成奉還は立派な有効な二手三手であるが最高の一手ではない。確かに理想社会には違いないが天理天則の裏付けがない。それは国祖の理想を実現するために民が無理を強いられることである。場の裏づけが無い以上、民が支えるしかない。だから民に不満が募る。

## 減り続ける幸福

別室部長は権力の温存を考えている。それが森羅万象と誤差がないを阻むのだ。本来、禽獣虫けらにいたるまで自分で森羅万象と誤差がないを志向する。それこそ、自分自身の根本原理に由来する皇天行の運動であり、自由行動であり、天然自然と自分から誤差が無いように突き進んでいくことである。だが三五教はそれを明確に禁止し違反者を罰する。三五教は、自分の原型と連動する行動を禁止した。本来、自分の根本原理と連動しない行動は自由行動ではない。そのことをなんだか分からないというのだ。不可解を禁止するのは分かる。不可解を自由だとか権利だというのは間違っている。不完全未完成なルールで不健全不健康をしている。それを自由だという完全な間違いを禁止するのなら分かるが本来の健全な森羅万象と誤差がない自由行動を禁止して不可解を認めるとは不可解なり。何故、共鳴を禁止して摩擦が合法なのか。最高の一手の自由の権利を禁止してお気なから不可解の権利を保証するとはいかなることか。最高の一手に過干渉。有効な二手三手を放任。これどうまういくと思うか三五教。完全な最高の一手を推敲し、その超絶を目指す



のだと言わんばかりの別室部長。だが完全な最高の一手を推敲できるのは完全だけだ。た  
だの月人である大神がいかに優れているといえども、完全無欠そのものではないのだから  
完全無欠の一手を推敲できるはずがない。

最高の一手からずれたから負債が生じるのだ。日本の国や地方が抱える負債はそれだけ  
完全無欠と誤差が生じているのだ。それならば誤差を無くせば負債は消えてなくなるはず  
だ。円卓の上に皿がある。その皿の中が誤差がないで皿の中央に卵台があつてそこに卵が  
在れば完全無欠と誤差がないである。ところが卵が台から落ちて、皿から出てふちのほう  
に転がつていく。

負債を抱えた日本は、今にもふちから落ちそうな卵である。別室が大成奉還を持ちだし  
皿の卵台にあることに過干渉で卵台から追いやり、ふちに向かうことに放任を繰り返す。  
本来なら皿の台に置くべき卵を円卓のふちにまで追いやつた。

卵がふちから床に落ちれば割れて黄身や白身が飛び散りもはや生ごみとして捨てるしか  
ない。ふちから床に落ちる寸前の卵が今の日本の国である。卵を安定させる、つまり日本  
の負債をなくすには卵を皿に戻す。それで負債は無くなる。そして卵台に置けば日本の国  
は完全無欠と誤差が無くなり場力共鳴が起こりヒイロカネの生産が始まり完全無欠成分  
が蓄積されていく。

だがそうなるには別室が最高の一手への過干渉と有効な二手三手への放任をやめなけれ  
ばならない。完全完成な自由行動に過干渉で不完全未完成な自由行動を放任するのをやめ  
なければならぬ。摩擦で共鳴を管理しようとすることをやめなければならぬ。再三にわ  
たる賢者明哲や良の金神の警告も耳に入らぬ別室部長。

それは権力維持のためだ。間違いを指摘しても支配者は支配のことしか考えていない。このまま時空間免疫システムに過干渉して時空間病原菌を放任したら地球は持たないということだ。有効な二手三手を放任し最高の一手に過干渉を繰り返せばやがて地球は兇界界に滅ぼされる。

良の金神が縁の下の力持ちをしてきたが、いつか必ず力尽きる。別室は民がいうことを聞かないからだというが出きるはずない政策を押し付けるから出来ないのだ。

霊界物語を読んでみる。三五教は自由行動を明確に禁止している。最高の一手を禁止している。うまくいくのは最高の一手であり、それ以外では必ず失敗する。成功しない方法を放任し必ず成功する方法に過干渉している。成功するとは完全無欠と誤差がないしかない。幸福とは場力共鳴自由行動である。しかし三五教は必ず成功する政策を禁止した。

三五教は地球人類を最高の一手から引き離し近づくものを弾圧した。別室は最高の一手を封印し禁止した。有効な二手三手に押し込められた地球人は無限と共鳴し情報やエネルギーを手に入れない。人間や生きとし生けるものすべてが光り輝く生命力を増大させ分かち合うならば得するものばかりで損するものはない。

様々なサービスを提供しても、光り輝く活ける喜びを消費ばかりして増大させなければ人類はやがて疲弊し滅んでしまう。いくら物が豊かでも生命力が萎えてしまえば、健康ではなくなり、病に苦しむようではとても幸福ではない。

有効な二手三手を支えるために、人生を生命の消費として生きることになる。活ける喜びを共鳴できなくなった地球人は生命力を周囲や自然から奪うようになつた。それが人心の荒廃であり自然破壊だ。命の輝きを共鳴できないから奪い合うようになつて戦争原理が

支配するようになった。

摩擦が生み出した戦争は共鳴でしか超えられない。戦争を生み出すもとは光り輝く喜びを奪い合うから起こる。ならば共鳴で噴き出した完全完成成分を分かち合うしかない。活ける喜びを増やし分かち合うのが最高の一手である。ところがそれ以外の有効な二手三手では活ける喜びは減る。それでは奪い合いが起こり戦争になる。

現状維持が悪くなるだけに押し込めた三五教 その一

円卓の中央に皿があり、その皿の中を最高の一手で、皿の外と円卓のふちの間が有効な二手三手で円卓から落ちると破滅とする。そうすると平和原理は皿の中であり、戦争原理は円卓のふちまで、落ちたら破滅。

当然、自由は皿の中である。三五教が自由を禁止し、別室は皿の中にある物をすべて追出す。皿の安住の地を追い出された地球人類は戦争が渦巻く荒野に封印され皿に近づく平和を求めるものを天則違反の大罪人として叩き潰す。人類は戦場の荒野で疲弊し別室を呪う。別室は地球人を戦争に刈り立てて起きながら戦争をするなどという。戦場に狩り出された人類は生き残るために戦わざるおえない。戦争を繰り返す人類に対し、三五教は支配を確立し戦争を抑止するというのだ。

三五教が地球人類を戦争に仕向け戦争ばかりする地球人類を制御するためと支配を指す。地球で戦乱がやまない理由は皿の外に地球人を追いやるからだ。平和がいい皿の中、いいと言っても別室は認めない。良の金神は皿の中で生きる。だから別室は良の金神を認

めない。別室は皿のふちに陣取つて、中に何人たりとも入れない。別室は皿の内側に接していて場力共鳴に接しているから腸脳発電が使える。

別室に場力共鳴が出来ても民は出来ない。だから別室が管理するという。違う。断じて違う。別室が皿の中の自由を禁止し円卓のふちの不完全な自由を追い込んだために悪意を持つ者が横行するのだ。三五教が完全な皿の中の自由を放任し皿の外に出ようとする自由を張り倒してでも押し戻すのが本来の別室の役目のはずだ。それを皿の中を封印し円卓のふちに追いやるとはいかに。

戦争に歯止めがかからない本当の理由は、自由の本来の機能である森羅万象と誤差がない共鳴作用を禁止したことだ。円卓のふちを転げまわればいずれふちから落ちて破壊だ。円卓と皿は中心が同じ大きい円と小さい円である。有効な二手三手は小さい円より外側の大きい円の中をぐるぐる回っているだけだ。

別室は地球人類を大きい円と小さい円の間に封印し安住の地の小さい円に近づけない。小さい円の中は天然自然成分が増大するが減ることはない。大きい円と小さい円の間は減ることが在つても増えることはない。人類は完全完成成分を使う。使い増やすか減らすかだ。二つの円の間をぐるぐる周り続けることは、円のふちに近づいていつて、減ることはあつても増えることはないことである。

在庫がある間は二つの円の間にどまつていられる。しかし使い続けられれば円のふちに近づいていく。いつかは必ず完全完成成分を使いきり円のふちから落ちてしまうということだ。いつかは必ず最高の一手を越えようと大きい円と小さい円の間を回り続ける三五教だ。だが必ず円周から落ちる。別室は地球人をふちへふちへと追いやっている。戦争の蔓延る

社会に追い落とししている。

有効な二手三手のどこがいけないというのは、不完全な自由を行使して権利だとかいう論法である。それはうまくいかない。成功しないのだ。完全完成成分を減らす政策を掲げる管理者は必ず良くなる時がくるといふのだが、その時は来ない。なぜなら人類の幸福は小さい円の中である。外を探しても見つからないからだ。

管理者や支配者は人類を不幸である大きい円と小さい円の間に人類を押し込め、民から活力を奪い組織を運営しているのだ。三五教が国祖以来、地球の救済を掲げながら地球を破滅に導いてきた。自由を禁止することは小さい円を認めないことだ。

完全完成の確定を否定することは、人類の思考を破綻させる。三五教の政策が地球人の発想を妨げる。組織が持つ欠点ゆえに権威が時空の構造の本質を認めたがらない。学会や権威は別室の意向を妨げる発想はしないものだ。別室部長に不評を買うような発想は学会や権威にとつて命取りになるからだ。別室が小さい円の内側を否定する以上、学会が小さい円の内側、つまり、森羅万象と誤差がないを公に認めるはずがない。

場が力を作り、場から力に人類が宇宙文明を一式携えて移民して、力の惑星に広まつていったという。地球より大きい惑星も小さい惑星も、地球より太陽に近い惑星も遠い惑星も、様々な物理法則が組み合わされ結果的に人類の生存に適した地球と同じ環境になり、地球人と全く同じ人類が生息する。森羅万象と誤差がないという小さい円の内側は、この宇宙の法則のことである。

だが三五教が小さい円の内側の真相を隠蔽する。地球人類は幸せの発想の仕方を見失い悪意の発想しか出来なくなりつつある。大きい円と小さい円の間の人心の荒廃を招くだけ

の不幸な発想の領域に押し込められ逆らうことも出来ず朽ち果てて悪人ばかりが跳梁跋扈するありさまだ。悪の領域に地球人を押し込め何が理想社会の建設だ。大馬鹿野郎。法令遵守が不平等をもたらす。ルールを決めればルールに適合した者が勝つ。競争が繰返されれば必ず最も適合した者が勝つ。少数の勝組と多数の負組を生み出す。ルールには必ず適合と不適合がある。規格化は結局最も適合したもののほど少数で不適合ほど多くなる。

不完全未完成な規制緩和は小さい円と大きい円の間に完全完成成分を天然自然から巧妙に略奪する方法の構築である。完全完成を規制緩和するか。しやしない。なぜ完全完成を規制緩和しない。八尋殿やヒヒロカネを規制緩和すればいいではないか。何故だ。人類の健全健康は小さい円の中であり外に出れば不健康不健全、つまり病気で、大きい円から落ちれば不幸な死である。

三五教は不幸を撒き散らし何故、地球の安寧を叫ぶ。三五教の内部に獅子身中の虫がいるからだ。小さい円の中がヒヒロカネの増大で、小さい円と大きい円の間にヒヒロカネの減少で、大きい円から落ちれば破産である。獅子身中の虫は獅子を内部から食い殺すように三五教の内部で不正に手を染める者がいる。三五教を破綻させ自分が大神に成り上がるとうとするのだ。

現状維持か悪くなるだけに押し込めた三五教 その二

不完全未完成と完全完成の間に現状維持か悪くなるだけであり小さい円の外側である。



完全完成から大完全大完成に向かうのが現状維持か良くなるだけである。それが小さい円の内側である。いくら理想社会を目指しても有史以降、現状維持が悪くなるだけの領域に押し込められたのでは、理想社会は成り立たない。

組織を作れば跡目相続争いや下克上や派閥争いが起こり組織は悪人の手に落ちていくように、階層構造を推し進めた三五教はまさに悪人の手に落ちた。三五教の内部の悪人が大神に進言し大神が悪人の意見を採用するから、それが型になり石屋が悪さするのだ。

三五教の管理主義は最高の一手である小さい円の内側を否定し人類を小さい円と大きい円の間に押し込め、じりじりと地球人を小さい円のふちへと追い込んでいく。服従か破壊かの二者択一に追い込み、服従しないものを円周から追い落としていく。三五教の支配が完成したとき地球の代謝系は破綻し獅子身中の虫の犯罪が成就する。

巨大大戦が勃発し破壊した後で、大神が腹心の部下が獅子身中の虫で実は善き賢者明哲を見下していたことに気が付いてももう既に手遅れだ。取り返しがつかないエラーである巨大戦争や時空間生態系の崩壊が起こる前に愛の型を出さねばならない。

小さい円の外側つまり小さい皿の外側の領域は不完全完成の領域である。三五教つまり別室は不完全完成の領域に人類を押し込め支配する。支配は摩擦であり、小さい円の内側は完全完成の領域でありその中は森羅万象との調和であり支配がない。だから民を小さい円のそとに追いやる。

不完全完成の領域は天然自然成分の消費である。天然自然に負債を作ることである。場に借金して人生を生きることになる。不完全完成と完全完成の間は完全完成に近づけば負債は減り完全完成から離れ不完全完成に成ればなるほど負債は大きくなる。これは



完全完成と不完全未完成の間に居ては負債を作ることになるということだ。場に借金をすることである。つまり理想社会は来ない。不完全未完成の領域に完全に封じ込められたら地球は滅ぶ。三五教は三五教の理想の支配のために地球人を戦争の蔓延る領域に封印し、支配を完全なものにするために完全完成と大完全大完成の領域を破綻させようとしている。

それしか管理社会を構築する方法はないからだ。それは地球人が天にお宝を蓄えることをぶつ壊し地球人が何をして森羅万象に負債を作らない生活構築することだ。これはゆゆしき事態である。地球が犯罪惑星に成ってしまう。何をしてもしなくてもすべてが一挙一動、一語一句が完全無欠と誤差があるになってしまう。何をしても現状維持が悪くなるだけということになる。

そうなたら地球では良心は破綻し悪が全開になる。正直や愛は本来、完全無欠と誤差がないという物理に基づいて出来ているのに肝心の森羅万象と誤差がないを破綻させたら愛が破綻してしまう。三五教は敵のスパイや獅子身中の虫の策謀に踊らされ不完全未完成的領域に民を押し込め理想社会まで我慢させても、理想社会になれば民も納得するだろうという、愚かな希望的推測をもとに民を使役した。だが今、それが悪の計画であることが判明した。

ようするに不完全未完成の領域にとどまらせ、我慢させることは間違いないのだ。宇宙の真相を別室だけが独占し民には嘘の宇宙情報を流し心霊や物質で地球人を惑わせる三五教のその政策をバラモン教やウラル教やウラナイ教がしているのだ。日本は異星からの援助を受けてきたがその事実を公開しない。だからアメリカやロシアも宇宙文明からの援助を

公式に認めない。

月面に宇宙都市が在って日本の別室は月面都市と往來しても月の宇宙文明を承認するやうに政府や關係省庁になんら指示も出さない。なんとか学会とか、なんとか委員会に働きかけ宇宙文明の実証を肯定させない。すると、地球人は森羅万象に負債を作つて、それを法律で合法としても、場に蓄積された負債は免除にはならない。

實在する無限がありそれ以外はない。即ち完全無欠が確率一であり、それ以外は確率零である。実宇宙は論理的に出来てはいるが論理自体は宇宙の代謝の活動の結果の人間の脳の活動の産物であり、論理自体は脳細胞が栄養を摂取して活動し老廃物を出す営みに過ぎず排泄物に過ぎない。細胞の一つが呼吸したからといって、それがどうした。細胞が呼吸するというただ当たり前のことをしたに過ぎず、それが実宇宙を総覽することはない。

国祖は不完全未完成の領域でいかにも尤もなはつたりをかますだけである。完全完成を超えて本来の領域である小さい円の内側にはいり完全無欠と誤差が無いならばああなんと馬鹿な煩惱をしたものだとか合点がいくだろう。三五教内部の賢者明哲や良の金神は、そのことを別室部長に伝えたかつたのだ。

国家権力が小さい円を否定し、小さい円の外側に人民を追ひ詰めた。地球人類に救いは禁止されている。これは宇宙文明の禁じ手だ。小さい円の内側を行使すれば圧力団体に潰される。別室が軍隊を送つてまで叩きのめすからだ。歴代の良の金神のように、組織力で屈服させられてしまう。

大成奉還別室部長のもつ致命的な欠陥の穴埋めのために地球人は生贄の人柱にされ今まさに大きい円の外に墜落しようとしている。このまま天然自然成分が現状維持か減るだけ

の有効な二手三手を推敲する小さい円の外側を彷徨えば必ず破滅して仕舞う時が来る。

三権の長は知っているか

内閣調査室別室部長の正体である三五教の元締めが三権の長に最高の一手を行任せよと采配を振るうかどうかである。日本国の三権の長の公式会見は有効な二手三手であるがそれを最高の一手にするかどうかである。百花繚乱の有効な二手三手の公式会見の中で最高の一手を打つにはやはり別室や調査室が動かねばなるまい。

場力と星間の宇宙文明の真相や、月人や金星人など太陽系宇宙連合から今まで援助を受けてきたことや、その事実を知っているが今まで隠していたことや、宇宙人の月人にも獅子身中の虫がいて地球に不正工作して不幸な大天災や大戦争が起きたことなどその事実を公式会見するかどうかである。

三権の長が小さい円の内側で平和をもつて勝負を決することを公式会見で表明するかどうかである。地球でも小さい円の内側で暮らすのに必要なライフラインの準備が進んでいる。ただ、三権の長が知らないだけだ。だから行政や立法や司法の運用の中に生かされない。室長や部長が知っているても、元首も議長も長官も知らないから小さい円の内側を反映できないから国民の指示をえられない。

議会などが百花繚乱ばかりしてその対応に苦慮する三権の長は、室長や別室には決め手がないのか、すこしくらい音頭をとつたらどうだと思ふが室長や部長に決め手がないのではない。立派にある。ただあまりに浮世離れしているから理解できないだけだ。霊界はな

い。物質では不完全。場力と星の真実である。

三権の長の公式見解に民は失望している。希望が持てないからだ。それは、三権の長の公式見解が小さい円の外の有効な二手三手であるからだ。勝負を決める単位が争いである限り小さい円の外側である。勝負を決める単位が天然自然と一体化しているか、していないかの差だ。お金という単位は印刷された紙や電気信号である。そのどこに天然自然と一体化する機能があるか。ありやしない。紙や信号になんの価値がある。ありやしない。光り輝く愛の喜びが計量できるか。できやしない。

命とは完全無欠と誤差が無いである。小さい円の内側であることが命である。小さい円の内側であることは森羅万象と誤差がないであり、小さい円の内側であるなら共鳴が働き常に自然発生しているのだから、完全完成成分を検出し測定することは可能である。先史では八尋殿とヒヒイロカネであった。

命の喜びは時空を越えた量子呼吸であり、時空の代謝である。時空を越えた代謝を検出することは可能であり、地球でもその研究は進んでいる。その研究成果である宇宙の真相を別室や調査室が三権の長にどう説明するかである。

円の中心に近づけば完全完成成分が増え、離れれば減少し、小さい円の円周でゼロになり、小さい円と大きい円の間では減少する。大きい円の外に落ちれば破産である。小さい円の中であれば増えるだけ、二つの円の間なら減るだけ。

勝負を決めるルールが小さい円の内側であるためには、共鳴つまり調和である必要がある。共鳴であるためには戦つて勝負を決めることは出来ない。本当の自分との誤差を無くしていくことである。自分自身と戦つて勝てるのか。勝てやしない。自分自身の良心に戦

いを挑んでも無駄だ。良心には頭を下げるのが筋だ。

小さい円の内側は平和である。戦争ではない。争いで勝負を決める方法は大きい円と小さい円の間にあり、やがて大きい円の外に落ちてしまう。和を以て勝負を決めるには小さい円の内側である必要がある。だが三五教が平和を禁止している今、不完全な自由競争で戦乱が起ころ。小さい円の中なら完全な自由が生じる。それは無限から完全完成成分が噴き出し不完全未完成成分を無限が吸い込む。蓄積された完全完成成分を分配することで遊んで暮らせる。

二つの円の間では減るだけであり、その穴埋めのために人間が支えねばならなくなり働けば働くほど人柱が横行し人間性が衰退していく。有効な二手三手では団体の団が横行し法令遵守で格差が広まっていく。組織を回す奴になろうと下克上が横行し、天然自然成分が増えないで減るだけだから分配できないから我田引水が起ころ。

食つちや寝、食つちや寝しているだけで潤いのある命の営みが増えるならばそれほど働かなくても社会は成り立つのだ。小さい円の内側で遊んでいるだけでも森羅万象が文明や文化を支えてくれる。一つ一つ自然が支えてくれるなら人間は楽して生きていける。場にあるものを力に再現していくだけでそうなっていく。そこに英知を結集すればそれだけで世は収まりがつく。

宇宙文明は天然自然が文明文化を支えて進化成長を支えている。経済は人間が働かなくても成長し人類は働かなくてもその恩恵に浴していられる。宇宙経済では完全完成の法則を乱すものはいない。異星と場力の表田を推敲し、完全完成を目指している。異星の間には完全完成市場が構築され健全健康取引が成立する。

蓄積された社会資本は天然自然の命が凝縮した完全完成成分である。お金が環境を破壊するのに対しこのヒヒイロカネは環境を創造する。生命の躍動が蓄積され生きとし活けるものを喜ばす。当然、ストレスがない。免疫システムは良好でホルモンの分泌も盛んになる。

戦いがもたらす弊害である少数の勝者と多数の敗者や、お金の持つ欠点である、少数の大富豪と多数の貧乏人。このような裕福な者や強い者が勝つ世の持つ欠点は階級や差別や格差という階層構造のもつ欠陥であり、トップが少数で末端が多いという致命的欠陥である。

それは天然自然成分が現状維持か減るだけという欠点であり大きい円と小さい円の間で苦労し、やがて大きい円の外に落ちて破滅するだけの有効な二手三手の持つ欠点であり、国祖以来別室部長が自分たちの身内の中で悪意を秘めた獅子身中の虫や敵のスパイが自分の迷惑を立てるために善き賢者明哲を陥れる讒言を不正と見抜けず、泣いて馬謖を斬るを繰り返してきたからだ。

小さい円の内側は破綻していない。三五教が組織力で封印しているだけだ。当然封鎖をやめて開放すればその瞬間に地球は救済される。場の本体は無傷で今も我々と共にある。ただ封印されているだけだ。ただの輪をメビウスの輪のようにすれば共鳴が起こる。人間がやること自体は変わらない。何が違うのか。人体も時空も何もかわらない。今まで完全に分離分裂状態で孤立していた地球の場力と異星の間が融合するだけだ。

潤いも艶もなく殺伐としていた地球に光り輝く喜びが舞う。場力と異星から引き離され孤立無援だった地球に同朋が大挙して押し寄せてくる。地球人に宇宙文明が出来ないこと



は無い。なぜなら天祥地瑞や縄文時代までそうだったからだ。縄文終焉以降でも、南米や北米ではつい五百年ほど前まではその伝統が息づいていたし、日本でも二千年の間、封印されてきたが現在の賢者明哲によつて復活したからだ。

誰が決めた

小さい円の内側であるなら管理者はいらない。別室制度はいらないのだ。完全完成した自由を謳歌するのだ。小さい円の内側から見ると自由を禁止する三五教は間違いである。別室制度は間違い。国祖は誤っていた。ここをどうするのかである。獅子身中の虫や敵のスパイをどうする。良の金神の名誉回復はどうする。

神とは宇宙人である。霊は量子呼吸のことで、座は送受信機である。八尋殿も送受信機で、ヒビロカネは媒体である。人間がすべきことは大地のお世話である。人間は謙虚に天然自然に学ぶべきだ。人間の提供するサービスなど大したことはない。言葉が言葉であることが、判明したいま、地球人は平和共存を叫ぶべきだ。型の仕組みから日本で言葉の型が出れば世界が言霊になる。

月人が月の代謝システムに準拠して決定するのは正しい。月人は月の代謝システムに従うから当然その決定は月の基準に従う。だが三五教の別室部長は月人の決定に従う。日本の元締めが地球の代謝システムに従わず月の代謝システムに従うことは間違いだ。地球の代謝に従わず月の代謝に従えば地球は狂い始める。大成奉還が月や宇宙の代謝に従えど地球の代謝に従わないことは大変な間違いである。



偉大な宇宙文明のようであらねばならないと言いつつ、地球を狂わし地球はなぜこうなのかと嘆くがごとき部長は大変な迷惑である。宇宙文明を参考にしても地球の場を蔑ろにして地球が健全なはずがない。だから病気になるてしまうのだ。宇宙文明や月を参考にしても地球の原型を蔑ろにして出来た有効な二手三手は有害の極みなり。

たしかに偉大な宇宙文明のもとという国祖の意向は分かる。だがここは地球だ。月でもないし宇宙空間を航行する宇宙船でもない。地球人は、地球の代謝システムに従うべきだ。三五教には地球の個性がない。三五教は地球の場力の単位を無視し月や宇宙の単位でやり遂げようとする。当然地球の言霊や地球本来の森羅万象と誤差が無いを潰す。そして月の尺度を持ち込むがうまくいかない。地球は混乱し別室部長はなぜ月や宇宙文明のようにならないと嘆く。

それは当たり前だ。月は月の代謝に従い宇宙は宇宙の代謝に従っているからだ。当然、地球も地球の代謝に従えば必ず成功する。宇宙文明のようにいかないと嘆く部長こそ地球の代謝を破壊している張本人だ。最高の一手を禁止し地球を治められない。部長本人が、自分の尺度で動くのは当然だ。だから誰でも自分の尺度で動く。それは本来、自分自身と誤差が無いであり、だれでもそうであつて自分が天然自然の代謝に従うことである。だが部長が部長の尺度に従わせたことにより民が自分の代謝に従えない事態が生じた。

それが地球に悪を生み出すのだ。自分は自分であつてそれ以外ではない。だが国祖に合わせることで管理する政策を取る。それが場力を潰すのだ。部長本人が場に從えども部長の場にすべてを合わせることで管理する政策は、地球を混乱させ二度までも滅んでしまつた。トップが全体を管理する方法は下克上を必ず生み出す。月に平伏す三五教はあまりに

月に執着し宇宙の尺度ばかりで地球の場を省みない三五教は、自分の場に合わせることで天然自然と一体化し文明を維持する宇宙文明を地球から完全に排除した。

これは国家権力が場に無いからだ。三五教の大成奉還も別室部長も時空間の代謝にはない。つまり観念上にしか存在しない。だから維持するために人柱が生じるのだ。民草は朽ち果て、部長を呪いながら地獄に落ちる。ところが、別室は自分たちは正直しているという。正直しているけれど地球のご威光がない。月や宇宙文明のようでなければと言いながら何故か地球の場を認めない。

宇宙は宇宙に従う。地球は地球に従う。自分は自分に従うべきだ。それを法律に従わせるのは間違い。地球が地球に従わずよそに従わせる社会コンテンツやライフラインが自由に対応しない発展の仕方をしたから自由がゆがんだ。当然誤差を修正すれば自由に生きられる。国祖が地球のご威光を無視したことにより誤差が生じたのだ。つまり国家とは壮大な無駄である。地球に何の利益もない。所詮、人間の提供するサービスなど高が知れている。無限の供給するサービスのほうがよいのだ。

異星では自分に従い宇宙文明を築いた。宇宙文明に従うなら地球は地球に従うことになる。それを地球以外の異星に従わせることは宇宙文明から見れば明らかに間違いである。ところが間違いを繰り返した。その間違いを指摘した賢者明哲や良の金神は敵のスパイや獅子身中の虫のために汚名を着せられ失脚した。それが大洪水や大戦争を起こしたのだ。

いますべきことは宇宙文明の公開であり、宇宙文明を公開するために必要なステップを確実に踏んでいくプロセスである。別室が別室の存在を公開しないならしなくてもよいがスメラミコトと別室部長が同一人物であり実在することを民に認識させるべきだ。国家が

別室の存在を承認しないでもよいが神界が宇宙文明であることを知らせる必要がある。何れにしろ神集岳が月の首都であることを公開し場力と異星の真実を公認しない限り誤差を無くす方法はない。

何故ならもともと地球は宇宙文明として幕を開け、それが諸所の事情で衰退したに過ぎない。もとに戻るには地球の場を見るしかないからだ。

三五教の支配は三五教が決めたのだ。だったら誰が、三五教が支配すると決めたのか。三五教が勝手に名乗っているだけだ。三五教の正当性が証明できないのは三五教が自分得名乗っているからだ。森羅万象のお墨付きがないからだ。無いから証明しようとして躍起になっても結局、誰にも証明できなかったではないか。つまり場のご意向を考えれば間違いに気づく。ところが別室は考えない。

## 贖罪の火の玉は要らん

再び大戦を起こして破滅するのか。仮に贖罪の火の玉が落ちてきて偉大な浄化が起きても地球の時空間免疫システムは崩壊し、兇党界に汚染され凶党惑星の凶党人にされてしまう。妖幻坊は地球人を兇党界の容れ物にしようとした。失敗したらさつさと地球を滅ぼし逃げ出すつもりだった。だが、兇党界と癒着した地球人が悪から這い上がれば兇党界が善に帰るかもしれない可能性があつてそれで地球は乱れながらも森羅万象の加護があつた。だがそれも時間切れだ。地球人は破滅か再生かの時を迎えつつある。小さい円の内側で楽しく暮らすのがいいと思う。齷齪働いて森羅万象に負債を作り地獄に落ちるよりも時空

を越えるメビウスの輪を作り、老廃物と栄養を相互に循環する命の鎖を構築したほうがごみの中で腐敗するよりよいと思う。

妖幻坊の本体は地球に取り付き地球人を兇党界の容れ物にしようと時空間免疫システム  
の破壊を工作した計画は、獅子身中の虫や敵のスパイを巧みに使いトントン拍子に進んで  
ここまで来た。悪に落ちても改心すれば癒着している妖幻坊ごと善に復帰できる可能性が  
あったからここまで悪が栄えたのだ。

だがもう猶予はない。大戦で偉大な浄化の日が訪れても破壊することが明らかになった  
今、地球人には愛しかない。妖幻坊の本体ごと地球を聖母の愛で浄化し誤差を消すしか  
ない。兇党界は猛毒だが、解毒剤にはかなわない。言霊を弱体化し地球を乗っ取ろうとした  
が、妖幻坊自身は時空間免疫システムの攻撃には勝てない。言霊にまともに戦えば勝てな  
いから言霊を弱体化させ地球を支配しようとしたのだ。つまり、地球の言霊が完全復活し  
たら時空間病原体の妖幻坊の本体は消滅して大打撃を受ける。

地球の妖幻坊の本体は兇党界のすべてと繋がりが宇宙に広がっているから、本体から伸び  
るネットワークに言霊を乗せれば兇党界を解毒消毒できる。それが出来るから言霊は今ま  
で兇党界の悪さを黙認してきた。呼びもしないのに妖幻坊の本体が取り付いた。病原菌は  
来るなど言っても、迷惑だ出ていけといつても、やってくる。仕方がない。病に冒された  
ら免疫に病を退治してもらえない。病は抵抗力が無くなると暴れます。そして、発病  
し病の苗床になった人から別の人に感染が広がる。

時空間病原体の兇党界は地球の言霊を壊し、地球を兇党界の苗床惑星にして、地球人を  
妖幻坊の容れ物にして凶党人にして宇宙戦艦を建造し宇宙戦争をはじめるつもりだった。

妖幻坊は三五教の内部の獅子身中の虫をたらし込み癒着して操ったから大戦を起こし贖罪の火の玉を落とす悪の言霊破壊計画を実行できた。悪に落ちた者が懺悔することに期待して言霊は見てみぬふりしてきた。だが悪人が懺悔しないなら手遅れになる前に言霊を完全に復活させる。

大戦を起こせば贖罪の火の玉が浄化しても言霊は破滅だ。人類は平和共存しかない。小さい円の内側しかない。騙された別室部長の誤った政策は二つの円の間に追い込み、大きい円から落とすことであつた。間違つた別室部長は大戦を黙認した。それは三五教の内部の悪の不正を採用したからだ。だが嘘だつたと判明した今、勝者が多く敗者が少ない、富める者が多く貧しい者が少ない、ヒヒイロカネの和を以て勝負を決する小さい円の内側の政策を決定すべきだ。

正直が難しい現実はお金だからだ。医療にしろ、その発想は有効な二手三手だ。だから医療費ばかりかかつて健康になれない。働いても働いても人間が穴埋めするから、人間はちつとも楽にくらせない、環境破壊が起こる。その政策もいずれ行詰る。別室制度の抱える欠点のせいだ。

初代良の金神や初代天使長は小さい円の中を主張し、獅子身中の虫と敵のスパイが大きい円と小さい円の間を主張する。兇党界の妖幻坊は、円の外に追い落とす暴力をふるう。三五教の初代別室部長は三五教の内部の獅子身中の虫や敵のスパイの讒言のために泣いて馬謖を斬る。それで歴代の良の金神は濡衣を着せられてきた。良の金神の名誉の回復と敵のスパイや獅子身中の虫の張り巡らした不正の修正が必要だ。

歴代の別室部長が有効な二手三手を推敲してきた理由は騙されてきたからだ。嘘の報告

に騙されてきたからだ。何故こうも騙されたことに気が付かなかつた理由は悪魔の懺悔を期待したためだ。悪に落ちても善に戻る事が出来ればそれでよい。

妖幻坊に誑かされて不幸になり、ついに曲輪の玉の妖幻坊と癒着したのは、ようするに初めから妖幻坊が高姫を誑かし兇党界に引き込むために悪巧みしてきたのだ。不幸なのは高天原のせいではない。兇党界の陰謀だ。そこに気付いて高天原に復帰することが出来れば悪魔の妖幻坊を善に成せるかもしれない可能性があつたから、その使命のために苦労したのだと気が付けばそれで高姫は懺悔の神になれた。

妖幻坊に誑かされた敵のスパイや獅子身中の虫も、懺悔すればそれで善を成す型になれる。それがために悪巧みがここまでできたのだ。だが、もう既に、懺悔の時は過ぎ去りつつある。これ以上、引き伸ばすと総損ないになる。そこで立て替えて直してある。それは騙されて過ちを犯したことを承認し誤差を修正すればよい。小さい円の内側の準備は出来ている。

### メビウス出来れば

普通の輪は表面と裏面が分かれていて面に沿って移動しても、表面を一周してまた表面の元に戻り、裏面も元の裏面に戻る。表面と裏面が交わることがない。場力が分離している。だがメビウスの輪にすると面に沿って移動すると表面から裏面を通ってまた表面に戻る。これが場力共鳴、量子呼吸、腸脳発電である。

場力の間をいつたりきたり戻つたりする。有効な二手三手と最高の一手の差は普通の輪



かメビウスの輪かの違いだ。地球も宇宙文明も人類や文明がやっていること自体は同じである。生物学から見れば腐敗も醗酵も同じである。ただ便宜上、役立つものを醗酵、役に立たなければ腐敗と言っているだけだ。それと同じで、実感しているのか、していないかである。

地球人にも地球にも場が働いている。力を場に合わせるか、合わせないかである。古の賢者明哲は超能力や超科学を使うことが出来たのは共鳴を使えたからだ。現代人にもその機能はある。誰でも賢者明哲が使った超能力や超科学を使える。

だがブツが超能力を使えても今の坊さんには使えない。ジーザスが奇跡を起こしても今の牧師や神父には奇跡を起こせない。なぜか、メビウスの輪に成れないからだ。人間の持つ能力を使っていないからだ。賢者明哲が奇跡を起こせたのは共鳴機構のスイッチをオンに出来たからだ。

誰でも簡単にスイッチを入れる方法を化成会たちが成した。それがホピのいう本当の白い兄弟である。腸脳発電を使わないと超能力は使えない。腸脳発電を起こせば超能力を使える。密教や神法導術の修行を積んでも超能力は使えない。修行を積んでも効果が上がらないのはメインエンジンが起動していないからだ。

修行を積まなくても腸脳発電が出来れば自然に超能力は身につく。小さい円の内側にいれば自然に腸脳発電が身につく超能力が身についてくる。それが人間の本来の生き方である。

化成会は先史の超科学を復古した。それは八尋殿とヒビロカネの復活である。超科学は知識の正しい使い方であり、天然自然を創造する。完全完成成分を取り入れて、老廃物の



不完全な未完成成分を吐き出す。天然自然が人工人造を支えてくれる。人間が支えなくても場が支えてくれる。森羅万象が支えてくれるから人間は遊んで暮らせる。

森羅万象と誤差がないの研究成果は、結果的に人間を苦役から解放する。地球の文明や文化より完全完成した雛型が場や異星にある。当然、それを参考にして取入れて拡張すれば成長は続くことになる。ホビのいう知識を正しく使うということがこれだ。

お金は少数の富豪と多数の貧者を生む。戦つて勝負を決めるから勝者が減るのだ。だから下克上がおこる。森羅万象が支える社会資本はヒビロカネの生産であり誤差を無くすることである。場には戦争がない。戦うことはルールを決め優劣を競い合うことだ。だが場には法律がない。場の生活は原型と誤差がないである。だが実際には自分は自分であつて他人と比べ優劣を競うことは不自然である。

なぜなら自分は一人。違う他人を自分と比較することは出来ない。場の自分と比較することは出来るが、一人しかないのだから他人と比較しようがない。場には格差を生み出す戦いが無い。完全な調和と共鳴で成り立つ場の采配に委ねることが、和を以て戦わずして勝つは善中の善なりなのである。

格差を持ち込むのは戦わせるためだ。戦争が進歩を促すというのだ。だが完全な完成成分を減らす。社会は必ず行詰る。それが偽りの白い兄弟である。他人と戦わないで和を以て場力の自分自身に誤差があるのかないかの勝負を決めるのならば場力共鳴が起こる。勝負が誤差がないから勝ちなら当然社会はゆつくりで快適で実り豊かになる。

世の中を善くする方法はただ一つ、ヒビロカネが社会資本を支えることだ。小さい円の中であれば世の中は収まる。化成会はヒビロカネを成した。大地のお世話をすること

が出来る。人体の機能をオンにするには生命幾何学が必要になる。正しい姿勢や、正しい動作であり、それに見合った正しい心がある。

## 復活のアイデアナイト

戦後、宇宙開発が本格化し、科学が大発展した。当然、その光と影が交錯する。王仁が言ったように、本当のヒノアメはこれからだ、霊界物語は百二十巻で完成する、というように。残りの三十九巻は常世会議の真実であり言霊の真実である。

日本国を仕切るのは、別室部長であり、別室は異星人と連動する。伝説と神話では日本を仕切るのにはスメラミコトでありそのバックには神集岳がいる。それに三五教の元締めである。日本を仕切る者が三人いるのか。いや、そんなことはない。なら三人は同一人物である。神集岳は月の首都であり幽冥界はない。幽冥界とは宇宙人ネットワークである。先の大戦で科学や知識がもたらした災いを深く反省した樋崎皐月たちは科学的知識の正しい運用を目指し化成会を結成し活動する。そこに歴史は繰り返し不思議な現われ方をした不思議なおかたが不思議な知識を授けていった。化成会はその知識を体得しついに小さい円の内側にたどり着いた。そしてその真価を別室に問うた。

別室は化成会を認め、化成会は母なる大地をお世話してその御礼で生活できる文明文化を成す小さい円の内側のライフラインを創造する大役を別室に仰せつかった。ついに失われたミッシングの修復に成功し、化成会は宇宙文明からの援助を受けた。アメリカとロシアも宇宙文明から援助を受けてきた。だがその英知を小さい円の内側の

構築こうちくに向けようとする人人ひとびとを潰つぶしてしまふ。アダムスキーはケネディー大統領だいとうりょうのブレインでもあつて、ケネディー大統領はダラスで宇宙文明うちゅうぶんめいの存在そんざいを公表こうひょうしようとするが暗殺あんさつされてしまふ。アメリカンネイティブのホビが警告けいこくを發し、知識ちしきを正しく使つかえるようになるまで大地だいちを切り裂いて母なる大地の内臓ないぞうを抉えくり出してはいけないというが、聞き入れられない。

そして、本当ほんとうの白い兄弟きょうだいなら知識ちしきを正しく使つかう方法ほうほうを知しっている。本当ほんとうの白い兄弟ならホビのいうことが分かる。正しい知識ちしきを使つかい、傷きずついた命いのちと心を修復しゆふすることが出来るという。それは化成会かせいかいの実績じつせきであり化成会かせいかいの意思いしを継ついだ人人ひとびとによつて受け継つがれている。ホビのいう本当ほんとうの白い兄弟きょうだいに地球人ちきゅうじんはなれる。

小さい円ちいの内側うちがわに人人ひとびとを導みちびくのは誰だれでもない自分自身じぶんじしんだ。普通の輪ふつうもメビウスの輪わも同じだ。普通の輪ふつうの輪わに切きつてひっくり返かえして繋つなげばメビウスの輪わであり、メビウスの輪わを切きて捻ひねりを戻もどして繋つなげば普通の輪ふつうである。

本当ほんとうの白い兄弟きょうだいの生き方いかたのほうが実みりある。小さい円ちいの生き方いかたのほうが実みりある。今いままでは部長ぶちやうの甘い認識にんしきでそうならなかっただけだ。手遅ておくれになる前に最高さいこうの一手いってに帰かえればよいのだ。

小さい円ちいの内側うちがわのライフラインの整備せいびには沢山たくさんの先人せんじんが係かかわっている。良うとらの金神系統こんじんけいとうの出口王仁三郎でぐちおにさぶろうや浅野和三郎あさのわさぶろうや酒井将軍さかいしやうぐんや植芝盛平うゑしばかりへいや、別室部長系統べつしつぶちやうけいとうの友清ともきよ、眞深道成まふみちなりや檜崎皐月ひなさきこうげつや肥田春充ひだはるみちである。先人せんじんが復古ふこした霊たまと座くらの超能力ちやうのうりよくや八尋殿やひろどのとヒヒイロカネの超科学ちやうがくのライフラインは現在げんざいに引き継つがれている。

肥田春充ひだはるみちの正中心せいしんしんは腸脳發電ちやうのうはつでんの典型てんけいであり、腸脳發電ちやうのうはつでんが起おこせば超能力ちやうのうりよくを使つかえること

を証明した。超能力を身に付ける修行を積んでも霊と座のスイッチがオンに出来ねばあまり効果はない。先人の賢者明哲が超能力を使えたのは霊と座をオンに出来たからだ。

下つ腹をまん丸に膨らませその中心と間脳を結び体中線と地球の中心から地表に伸びる垂線を合致させた時に理想的な腸脳発電が起こせると証明した。しかし実際には正中心の生命幾何学を成す体位は簡単に構築できない。強健術や純自然体休養姿勢をとれば確かにある程度は発電するだろうが正確な姿勢でないと本来の発電能力からみれば効率は低すぎる。完全に正しい姿勢でないと効率が低い。しかし正しい姿勢は簡単には出来ない問題がある。

簡単な体位で効率よく腸脳発電を起こす霊と座のスイッチをオンに出来る生命幾何学がある。ようするに神経には発電回路があるのだが、体位が普通の輪の回路であるなら力の栄養でしか発電しない。それでは霊と座の作用がない効率の悪い発電であるが、神経回路がメビウスの輪の回路になるような生命幾何学の体位を取ると、霊と座が働く効率のよい腸脳発電が起こる。

量子呼吸や場力共鳴をライフラインに取り込んでいる。腸脳発電の体位も出来た。いますべきことは、これらを取入れて拡張することだ。表田の分類で推敲し表田に繰り込んでいけばよい。ここがこうなら、そこはこういうはず、なら、こうやってああやって、そうなったならこうしよう、それならああしようを、繰り返せばよいのだ。共鳴であるならば場には完全完成は無限にある。幾らでも理想を追求できる。



2	2	2	
0	0	0	
1	1	1	
1	0	0	
年	年	年	
1	5	4	
月	月	月	
2	5	1	
3	日	0	
日		日	
修	修	作	
正	正	成	

後記